

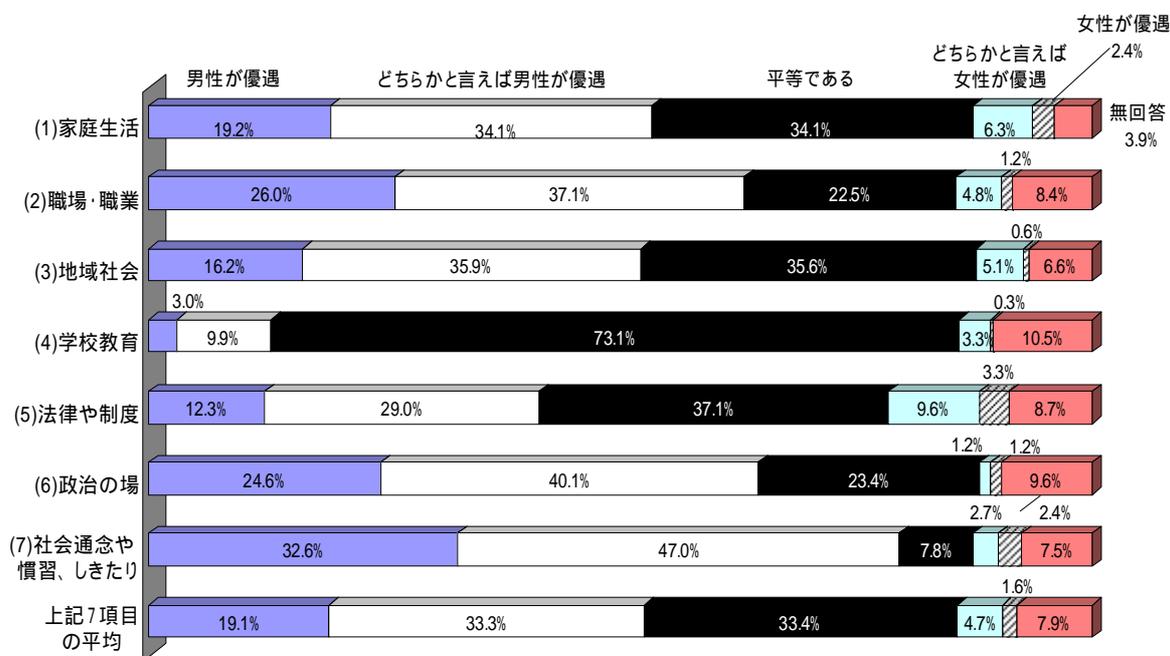
分析結果

男女平等に関する価値観について

問1 次の項目で、男女の地位は平等になっていると思いますか？

- (1) 家庭生活で
- (2) 職場や職業で
- (3) 地域社会で
- (4) 学校教育で
- (5) 法律や制度の上で
- (6) 政治の場で
- (7) 社会通念や慣習、しきたりで

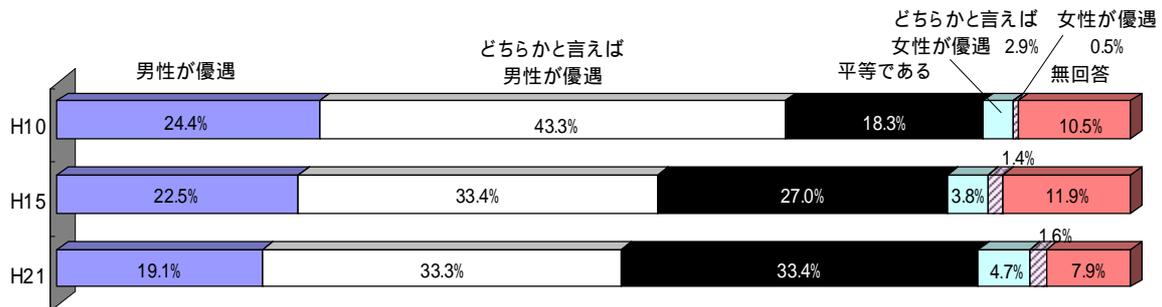
男性が優遇されている
 どちらかと言えば男性が優遇
 平等である
 どちらかと言えば女性が優遇
 女性が優遇されている



全体 n=334 (男性 n=139, 女性 n=192, 無回答 n=3)

一番平等と感じられているのは「学校教育」で、73.1%の方が平等と感じています。
 男性優遇感（合計）は、5割以上の方が7項目中5項目（「家庭生活」「職場・職業」「地域社会」「政治の場」「社会通念や慣習、しきたり」）で感じています。特に「社会通念や慣習、しきたり」では79.6%と、8割の方が男性優遇感を感じています。
 女性優遇感が高いのは「法律や制度」で12.9%と唯一1割台。「平等感」の高さ、「男性優遇感」の低さも「学校教育」に次いでいます。

【意識全体の経年変化（7項目の平均値の推移）】



平等感を感じている人が増え続けています。平成10年度調査時には、「男女の地位は平等」と感じていたのは18.3%と2人に1人の割合だったのが、今回調査では33.4%と3人に1人になりました。また、男性が優遇されていると感じている人の割合は67.7%から52.4%に大きく下がり、女性が優遇されていると感じる人は3.4%から6.3%と微増しています。

【平等であると感ずる割合の経年変化】

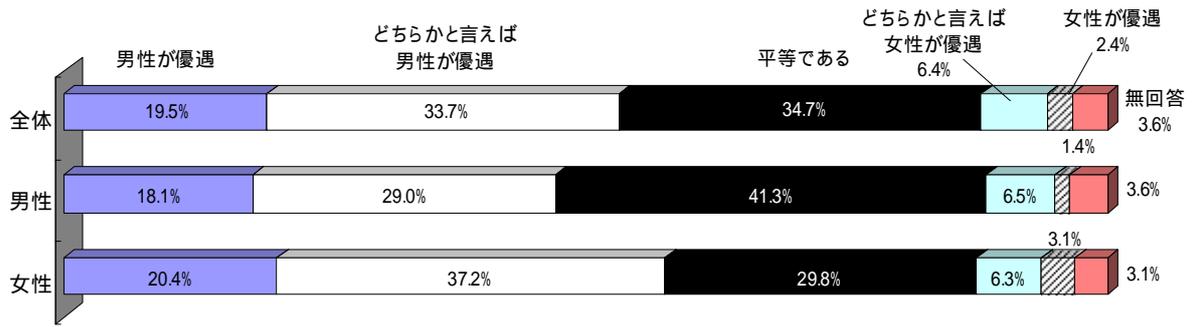
	H10		H15		H21	
	順位	割合	順位	割合	順位	割合
(1)家庭生活	3	23.2%	3	24.9%	4	34.1%
(2)職場・職業	6	12.6%	5	19.1%	6	22.5%
(3)地域社会	4	19.9%	4	24.6%	3	35.6%
(4)学校教育	(1)	—	1	62.1%	1	73.1%
(5)法律や制度	2	27.0%	2	29.1%	2	37.1%
(6)政治の場	5	18.4%	6	17.6%	5	23.4%
(7)社会通念や慣習、しきたり	7	8.8%	7	11.3%	7	7.8%

ほとんどの項目で平等感があがっており、平成10年度調査時は10%～20%台の数値だったのが、今回は20～30%台に増加しました（「学校」除く）。

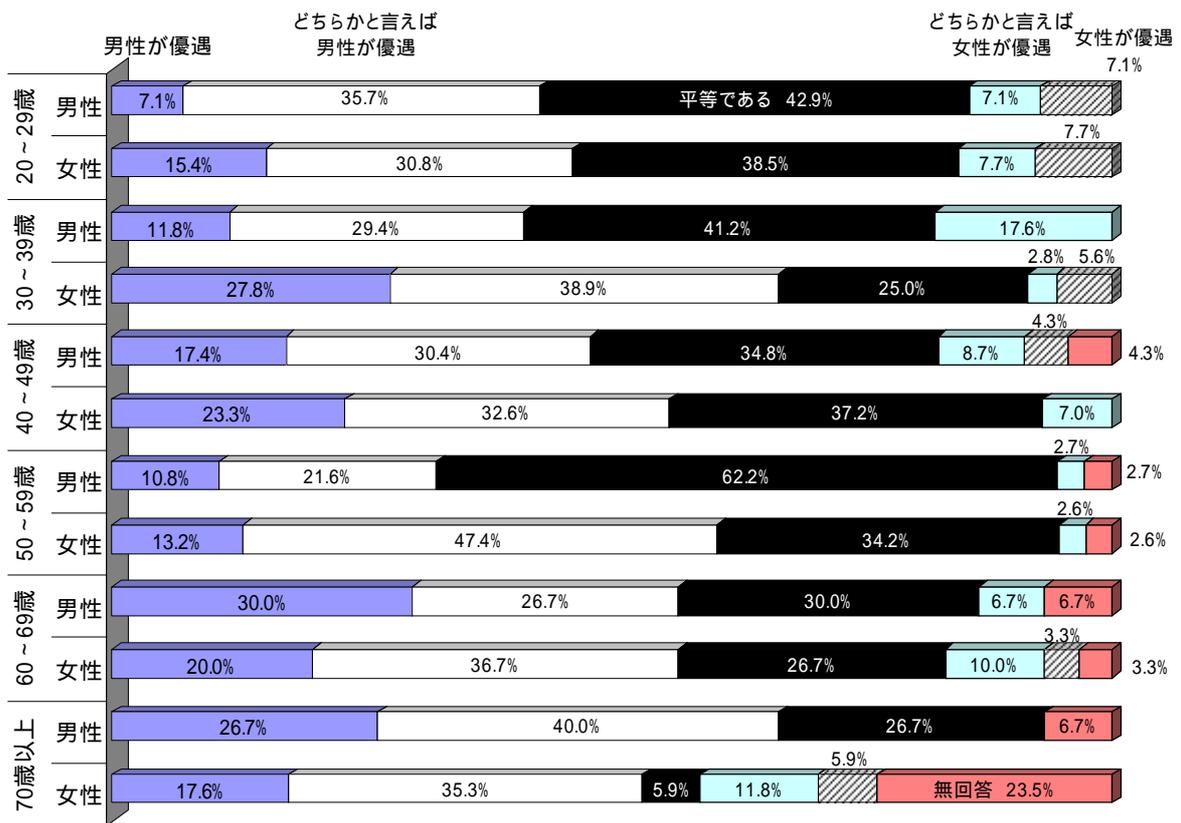
特に高い平等感が感じられている「学校教育」は、更に割合が増え今回は73.1%の人が感じています。次に30%台で「法律や制度」「地域社会」「家庭生活」と続きます。「地域社会」での平等感、7項目の中で一番大きく伸びています。続く「政治の場」「職場・職業」は20%に落ち、特に「政治の場」は低い伸びです。

最下位の「社会通念や慣習、しきたり」になると、平等感を感じる割合は大変低くなり、更に7項目中において唯一減少傾向にあります。今回は平成10年度調査の数値も下回って7.8%になりました。

(1) 家庭生活で



女性で平等と感じている割合は、男性 41.3% に比べ 29.8% と少なく、一方男性優遇感（合計）は男性 47.1% に対し女性は 57.6% と高くなっていて、男性の方が平等感が強く、女性は男性優遇感を強く感じている傾向があります。

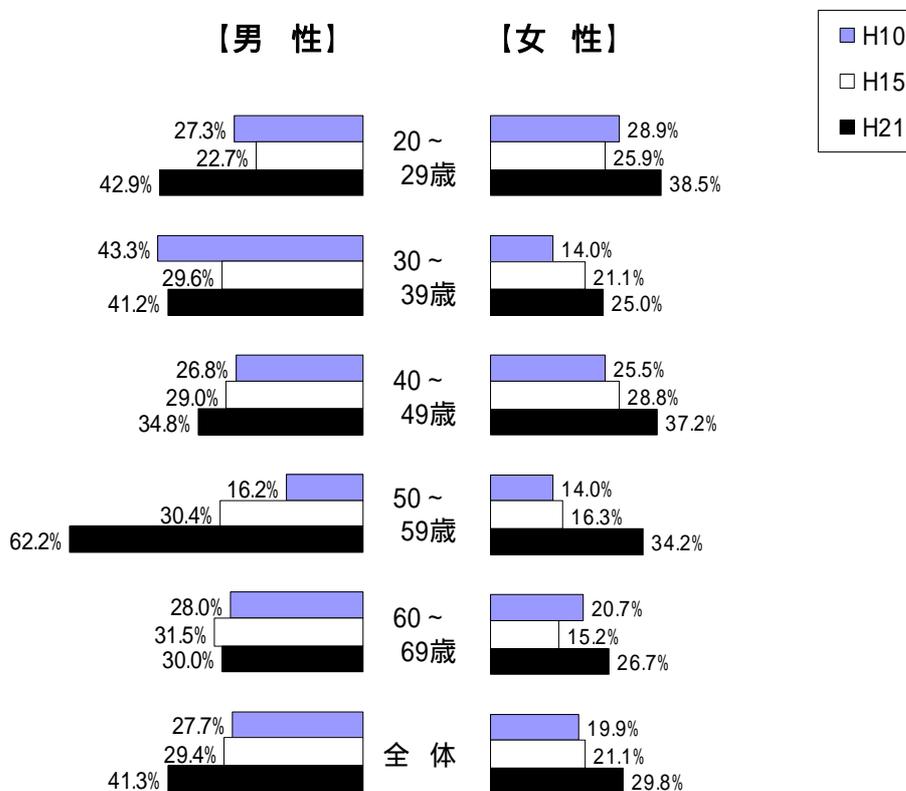


年代	18・19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	合計(人)
男性	2	14	17	23	37	30	15	138
女性	1	26	36	43	38	30	17	191
全体	3	40	53	66	75	60	32	329

20、40、60代は、平等感、優遇感とも男女の割合がほぼ同じという結果が出ています。一方30、50、70代は男女間に意識の差が見られます。平等感は男性の方が女性に比べて高く、特に50代は男性が62.2%と全年代の中で一番平等感を感じている割合が大きく、一方女性の割合は34.2%で、大きく差が開いています。

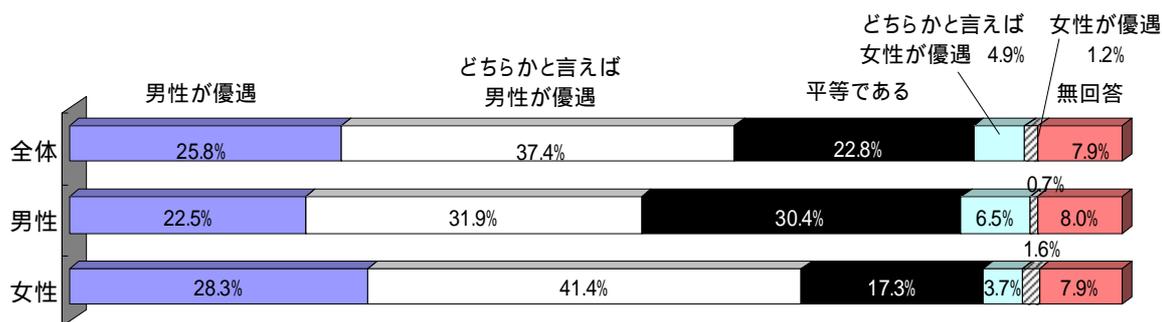
また、男性優遇感を感じている割合が特に大きいのは30代、50代の女性で66.7%と60.6%。また70代男性は、男性優遇感を感じている方が66.7%と高いのに対し、女性優遇感を感じている方は0%と、男性優遇感の強い世代となっています。

【平等であると感じる割合の経年比較】

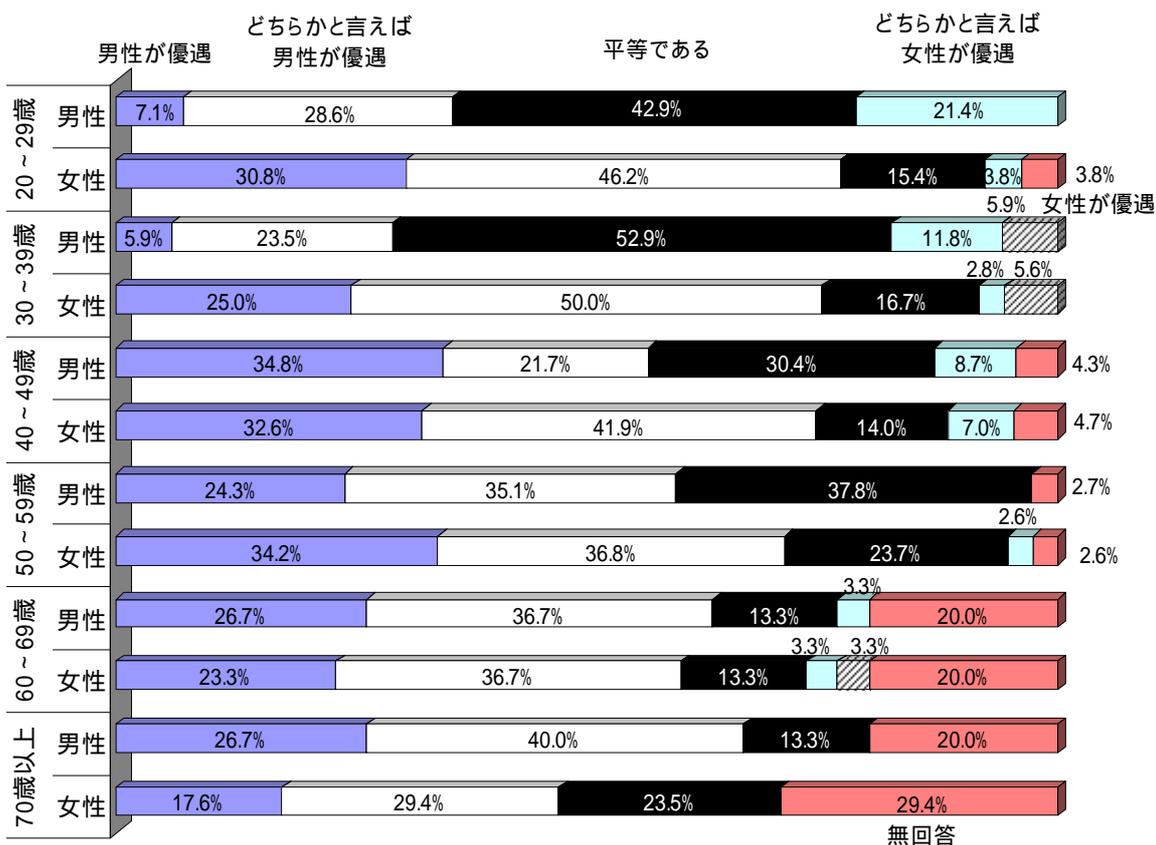


全体的に伸びています。女性より男性の方が平等感を感じている割合は3回の調査を通じて常に高く、男女の割合の差は全体で見ると1割程度あります。全3回の調査を通じて男女の意識の差が少ないのは20代と40代です。一方、差が開いているのは30代と50代で、今回調査では特に50代が男性62.2%に対し女性34.2%と男女間の開きが目立ちます。

(2) 職場・職業で

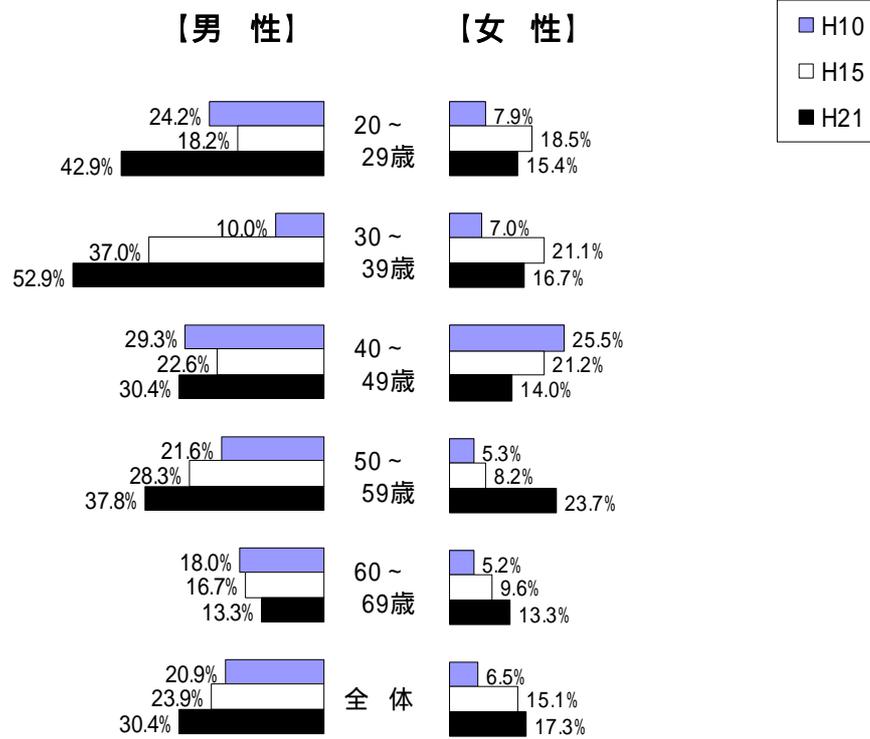


男性優遇感が高いこの項目では、女性は 69.7%と約7割、男性も 54.4%と半数以上が男性優遇感を感じています。一方平等感を感じているのは、女性 17.3%に対し男性 30.4%と男性の方が多く、男性の方が平等感を、女性の方が男性優遇感を感じている傾向がでています。



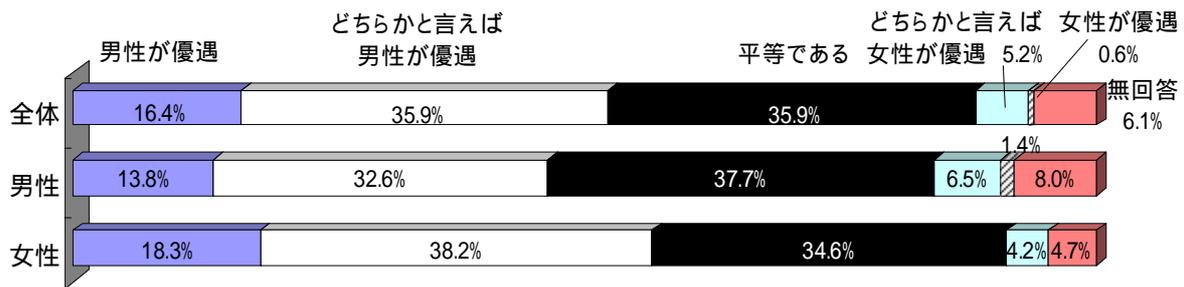
20、30代で、男女の平等感の差が大きく開いています。この年代は男性の平等感が 42.9%、52.9%と、他の世代に比べて高い一方、同世代の女性は 15.4%、16.7%と低く、男性優遇感は 77.0%、75.0%と約8割の人が感じています。

【平等であると感じる割合の経年比較】

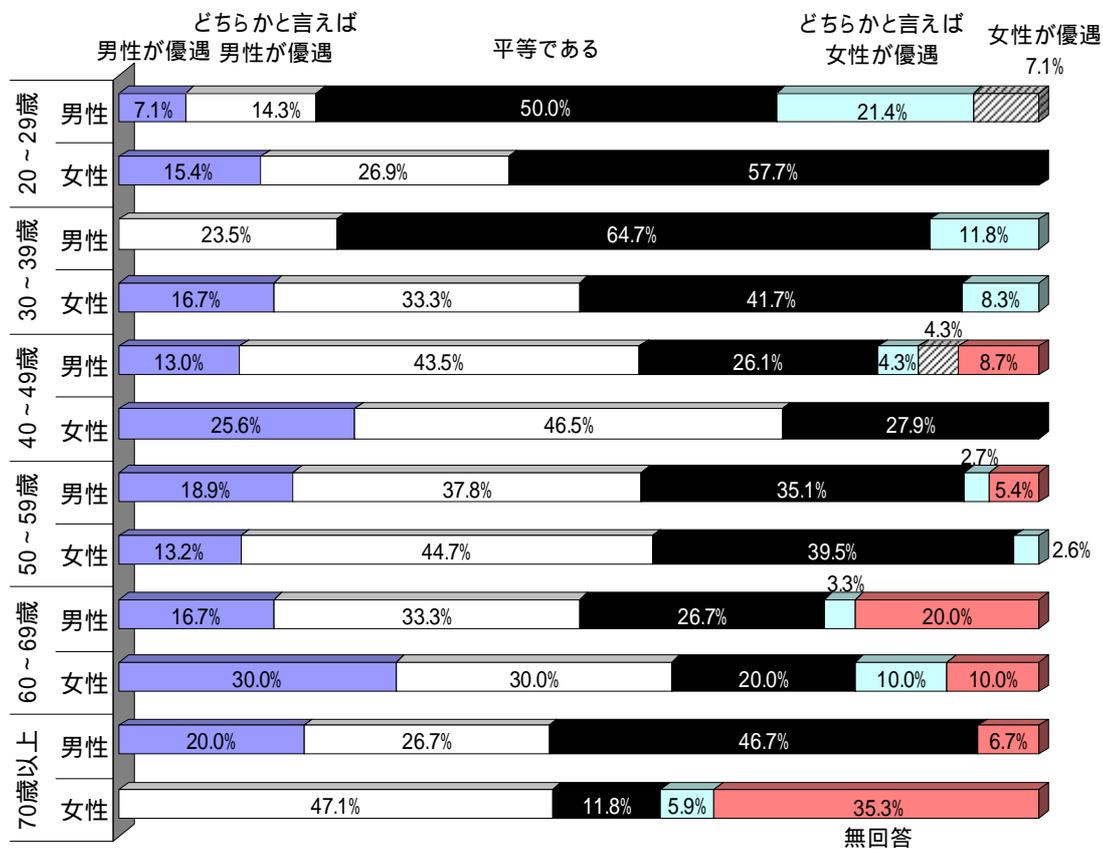


全体としては増加していますが、実際に仕事をしている割合の高い世代（20～50代）には「男性は増加」「女性は減少」の傾向が見られ、20、30代女性は15年度調査で上がった数値が、今回は下がり、40代女性は平成10年度調査時から下がり続けています。

(3) 地域社会で



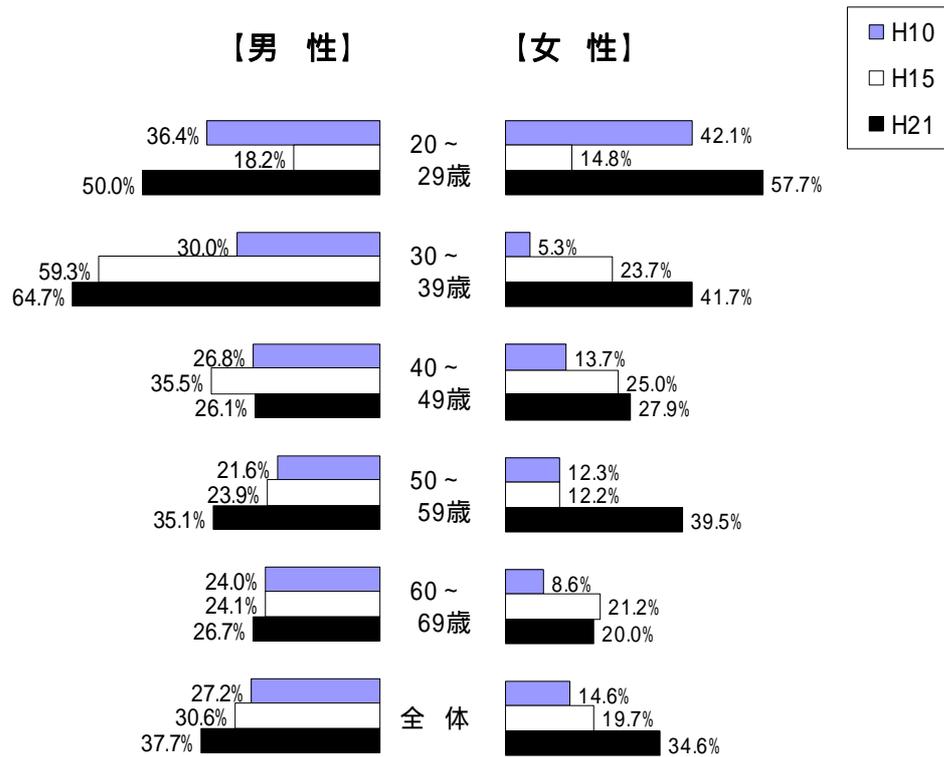
男女の意識のあり方はほぼ同じ割合です。5割前後の方が男性優遇感を、3, 4割の方が平等だと感じています。



20、30代は平等感が高く、特に30代男性は64.7%と高いのに加え、男性優遇感は23.5%と他の年代に比べて低くなっており、平等感が高く感じられている世代です。また20代は男性50.0%女性57.7%と、男女とも平等感が高くなっていますが、女性優遇感を男性の28.5%が感じているのに対し、同年代の女性で感じている人はいませんでした。

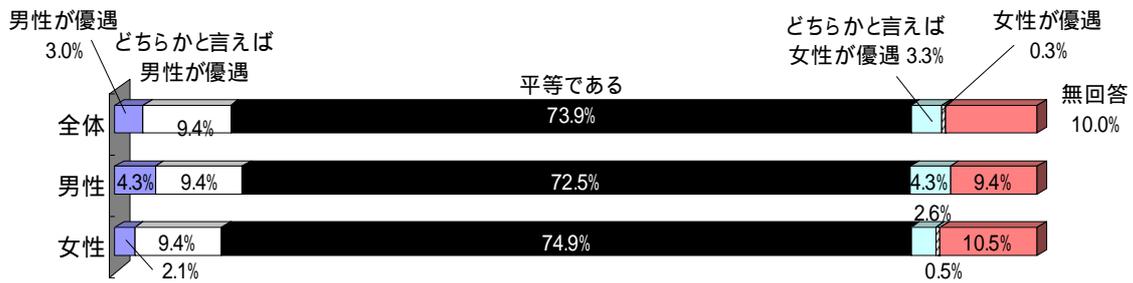
ほとんどの年代で女性の方が男性よりも男性優遇感を感じていますが、特に40代女性は72.1%と全年代の中で一番男性が優遇されていると感じています。

【平等であると感じる割合の経年比較】

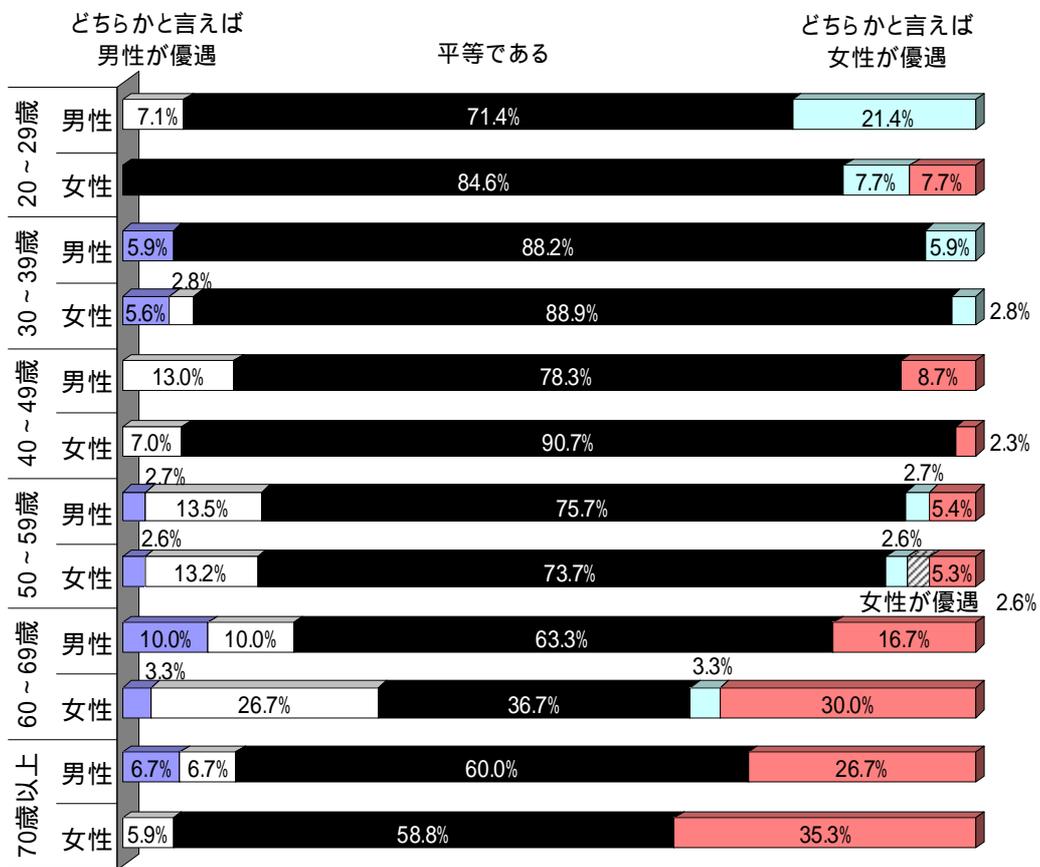


全体的に増加しています。平成 10 年度調査では 30 代、60 代の女性は 1 割に満たなく、最高で 20 代男性の 36.4% だったのが、今回は最低で 60 代女性の 20.0%、最高は 30 代男性の 64.7% で、全体では 4 割近くになっています。特に 20、30 代の若い層は男女とも目覚ましい伸びを示しています。

(4) 学校教育で



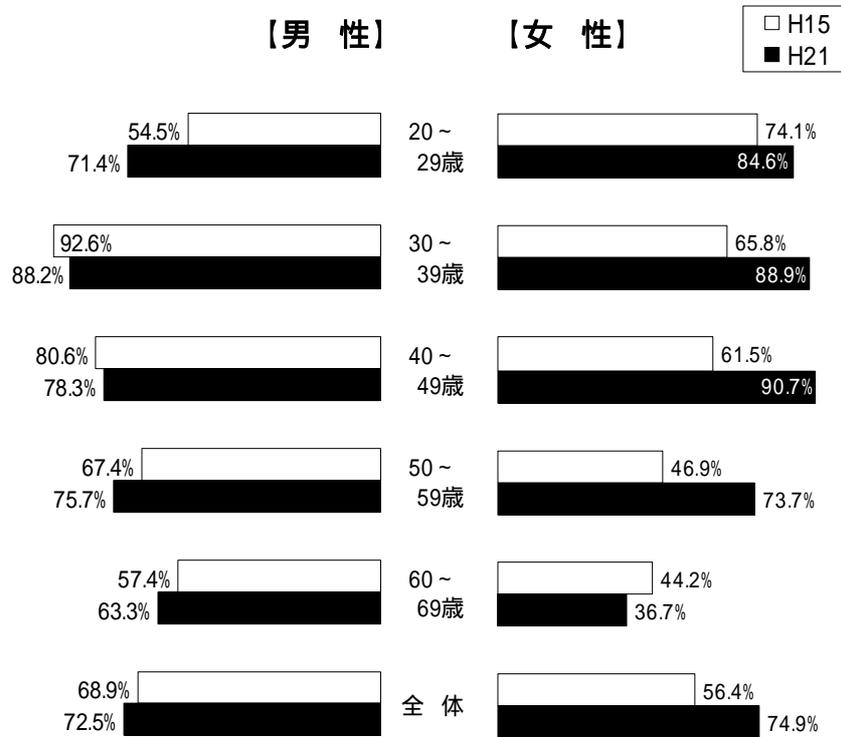
男女ともに高い割合で平等感を感じています。



20、30、40代の女性が特に平等感を感じており、特に40代は90.7%の人が「平等である」と回答しています。また20代は男女とも、女性優遇感の割合が男性優遇感の割合を上回っています（男性優遇感：男性 7.1% 女性 0% 女性優遇感：男性 21.4% 女性 15.4%）
一方、50代を境に平等と評価する割合は減っていき、特に60代の女性は平等感が36.7%と4割弱しか感じておらず、男性優遇感が30.0%と3割を占めるなど、不平等感が強くなっています。

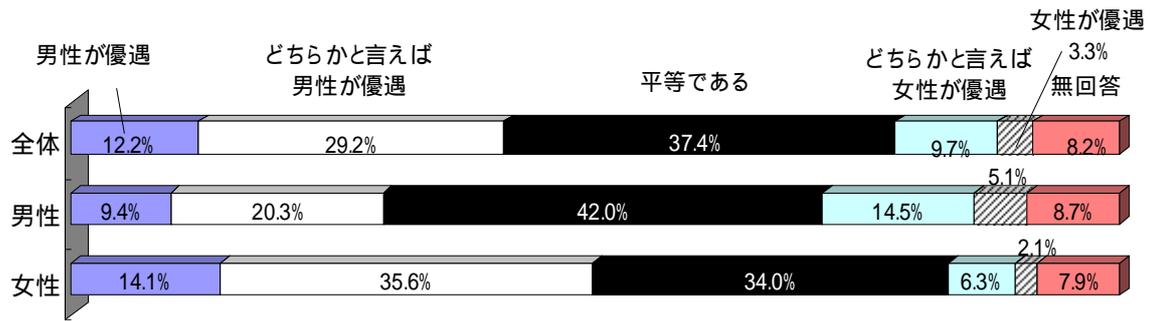
【平等であると感じる割合の経年比較】

「学校教育」の項目は、H15 年度調査から追加

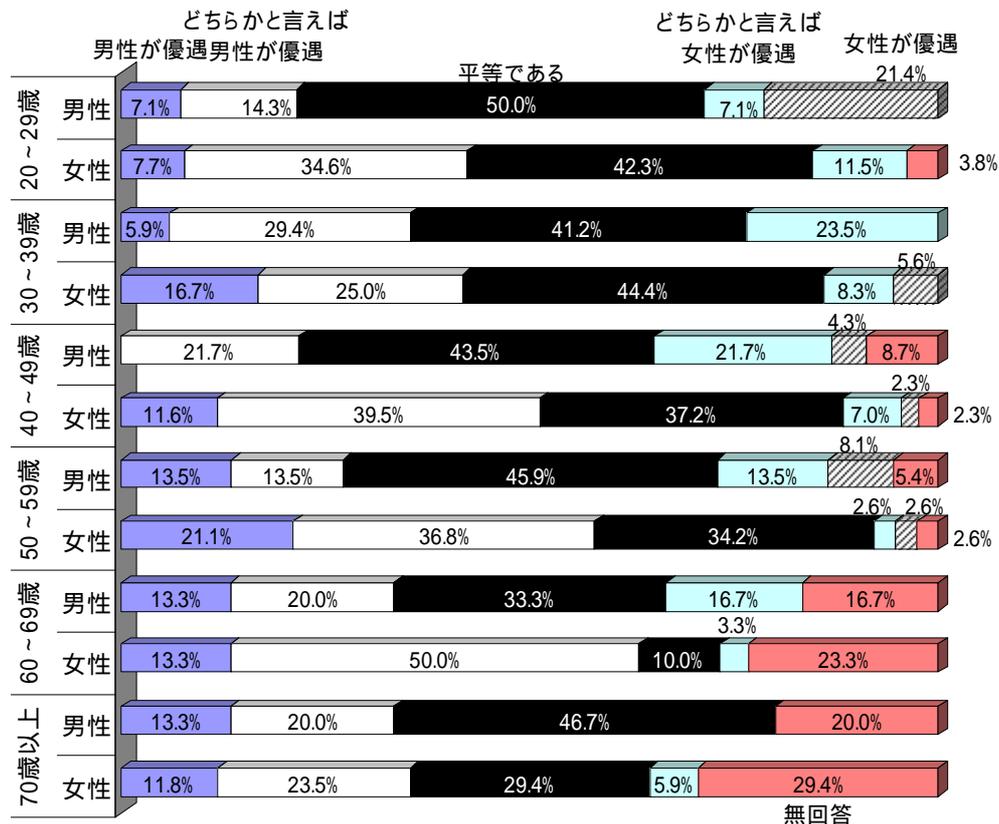


全体的に増加しています。女性の伸びが大きく、特に 30、40 代女性は、平成 15 年度調査では 65.8%、61.5% だったのが、それぞれ 88.9%、90.7% に伸びました。減少したのは 30、40 代男性と 60 代女性で、特に 60 代女性は 36.7% と唯一の 3 割代に減少しました。

(5) 法律や制度の上で



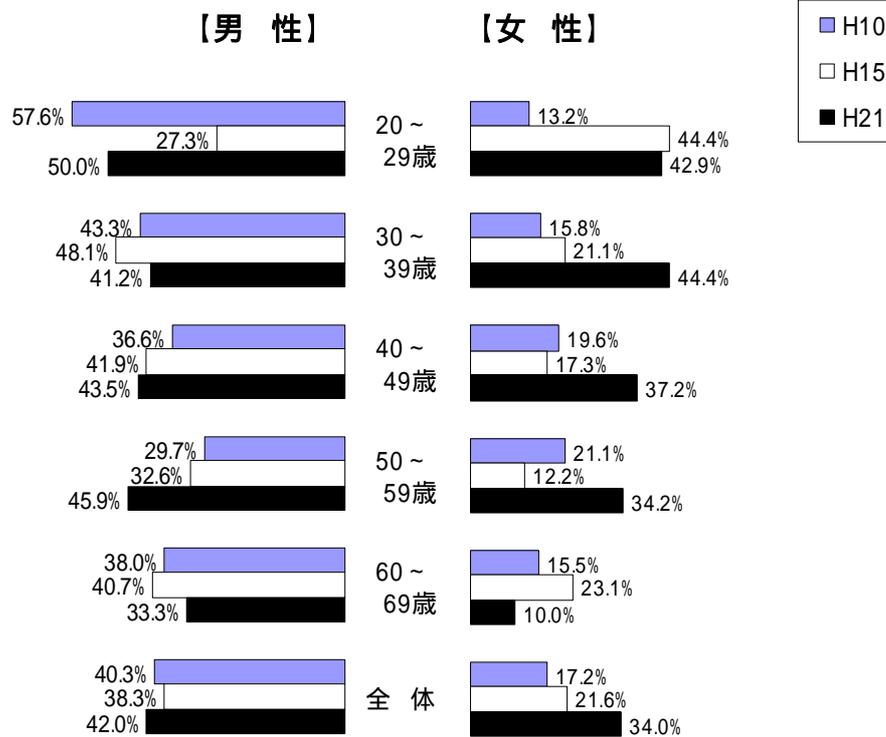
男女の意識の差が大きい分野です。男性は女性優遇感を強く感じており、女性 8.4% に対し 19.6% と約 2 割が感じています。一方、女性は男性優遇感を強く感じていて、男性 29.7% に対し女性 49.7% と多く、2 人に 1 人が感じています。



20、40、50、60 代では、男性優遇感を感じている女性が多く、男性との意識の差が現れています。特に 50 代は女性 57.9% と 2 人に 1 人が感じています。

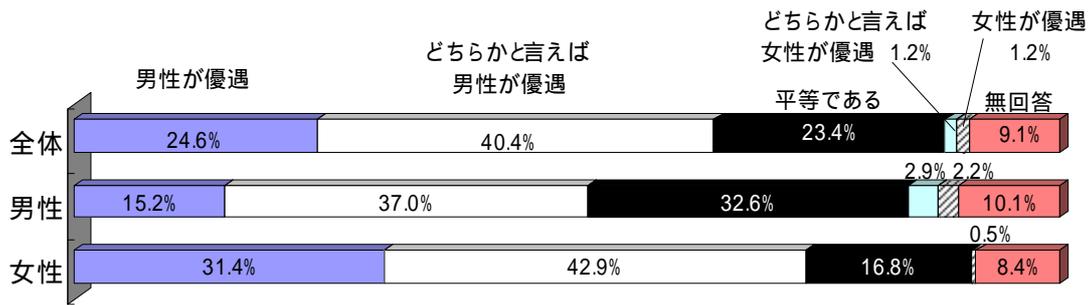
女性優遇感は 70 代男性を除いた全ての年代で回答がありましたが、20 代以外では男性の方が女性より割合が高く、特に 30 代は男性 23.5% と全ての年代の中で一番多くの割合が女性優遇感を感じており、対して同年代の女性の割合は 8.3% と男女差も一番大きくなっています。

【平等であると感じる割合の経年比較】

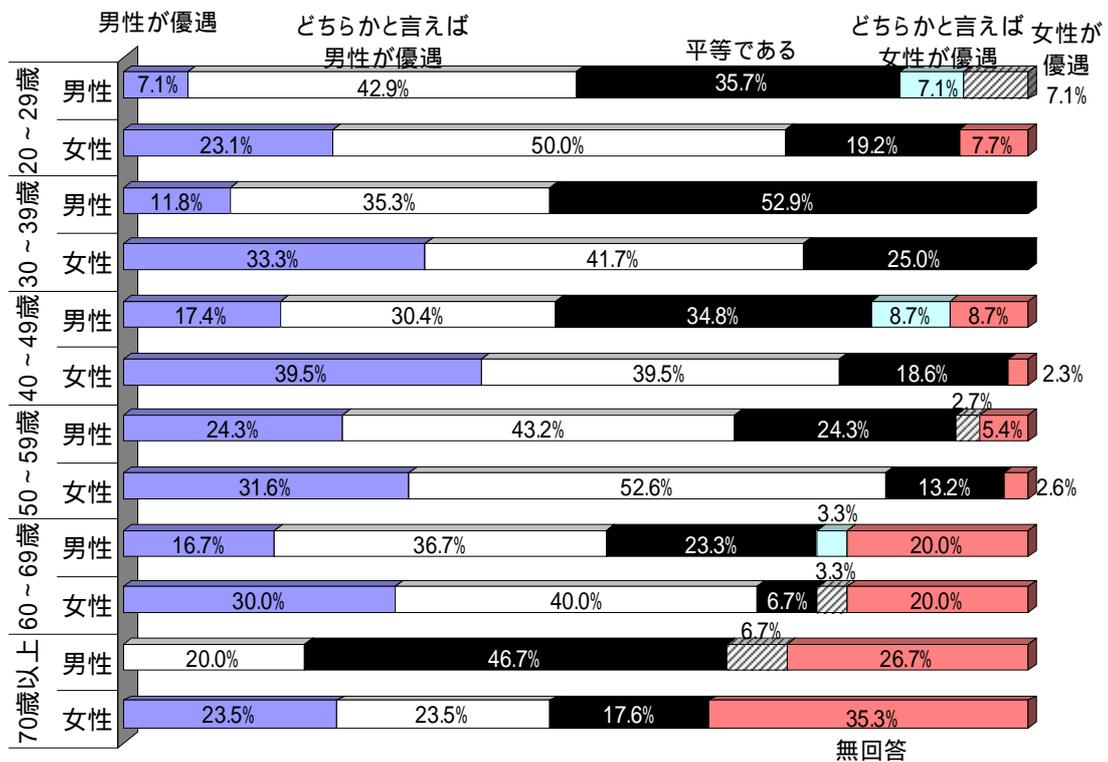


男女とも増加しています。全体では依然として女性の方が男性より平等感が低いものの、男性の数値が50代を除いて横ばい傾向にあるのに比べ、女性は大きく伸び、平成10年度調査時には20代の男性57.6%に対し女性13.2%など、男性よりずっと低かった女性の数値が、今回は30代の男性41.2%に対し女性44.4%など、男性が女性を上回った世代もあります。一方、60歳代女性は前々回から15.5%、23.1%、そして今回は10.0%と減少し低い数値のままです。

(6) 政治の場で



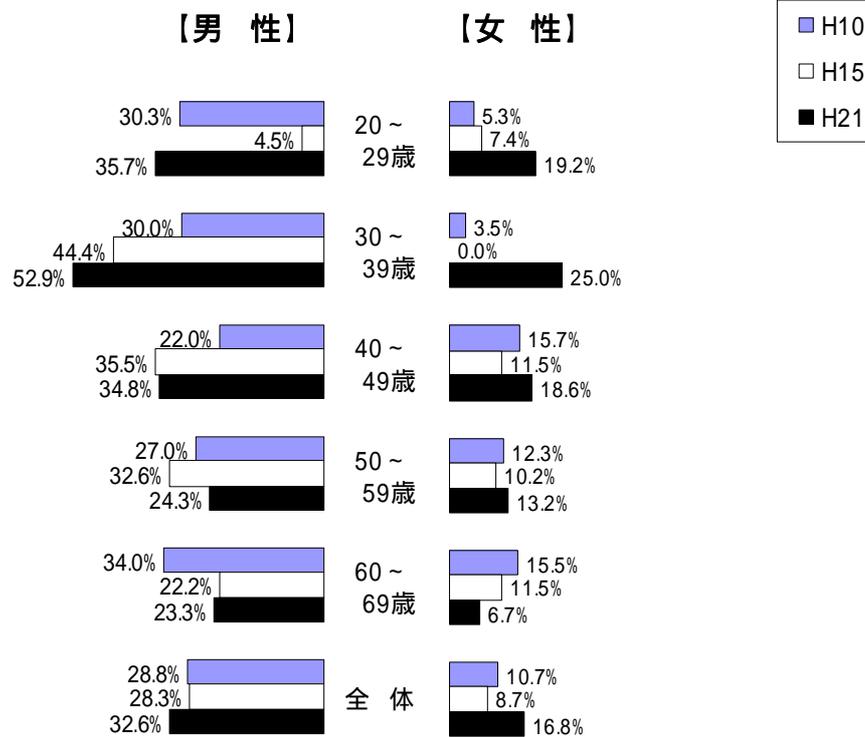
男女間の意識の差が大きく、男性に比べ女性が強く男性湯偶感を感じている項目です。男性優遇感を男性の52.2%が感じているのに対し女性は74.3%と、7割以上の女性が男が優遇されていると感じています。また、平等感も男性は32.6%に対して女性は16.8%、女性優遇感も男性は5.1%の人が感じていましたが、女性は0.5%しかいませんでした。



どの世代も男女間の意識の差が大きくなっています。中でも20、30、40代は、男性が平等もしくは女性優遇と感じている割合が高いのに対し、同年代の女性の男性優遇感が高くなっています。特に30代男性は全世代の中で一番平等感が高く、52.9%が平等と感じているのに対し、女性は25.0%と半分の割合です。

男性優遇感が一番高い世代は50代で、女性84.2%男性67.5%と、男女とも男性が優遇されていると感じている人が全年代の中で一番多い割合です。

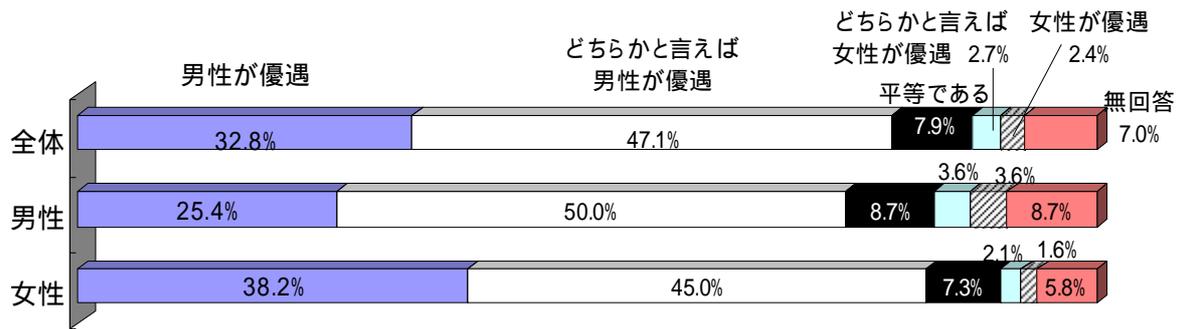
【平等であると感じる割合の経年比較】



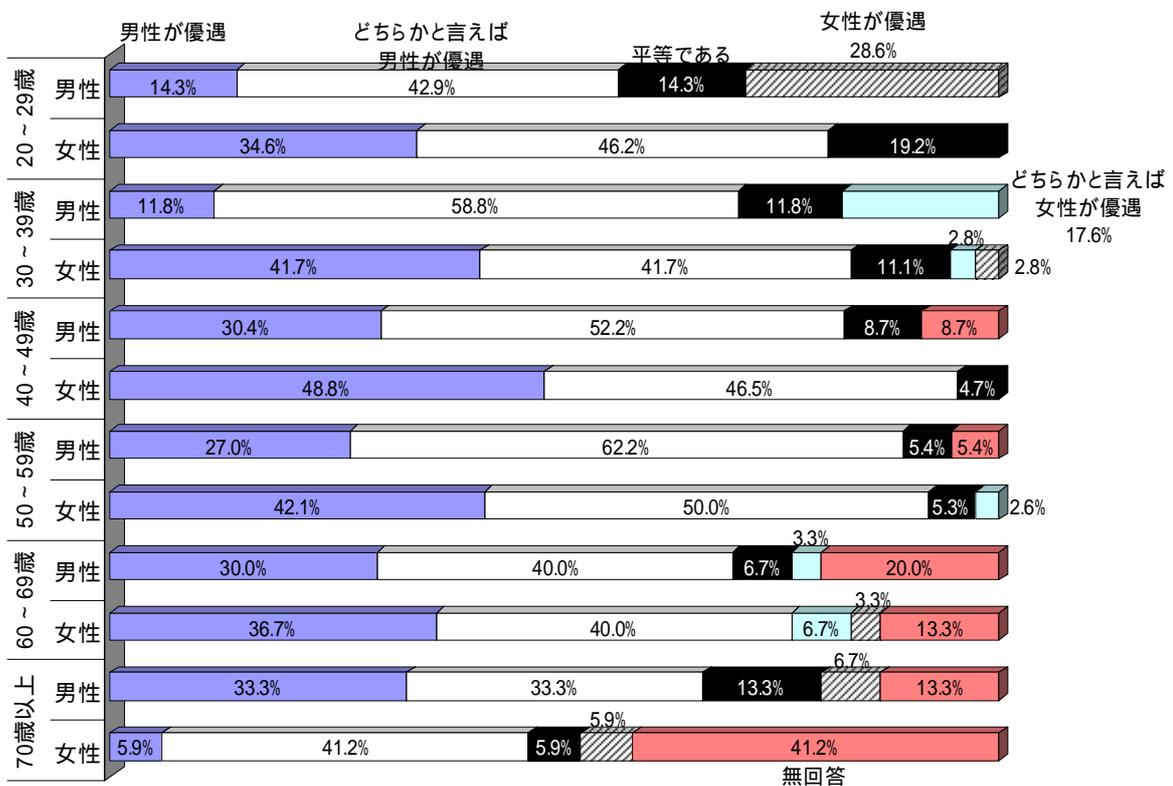
平成 15 年度調査では減少傾向にあった数値が今回は概ね増加しました。特に 30 代は男女とも大きく伸び、男性 52.9% 女性 25.0% と他の年代よりも高い数値になっています。

一方、女性は 1 割台の数値が目立ち、60 代女性は今回調査で 6.7% と 1 割を割る結果が出ています。

(7) 社会通念や慣習、しきたりで



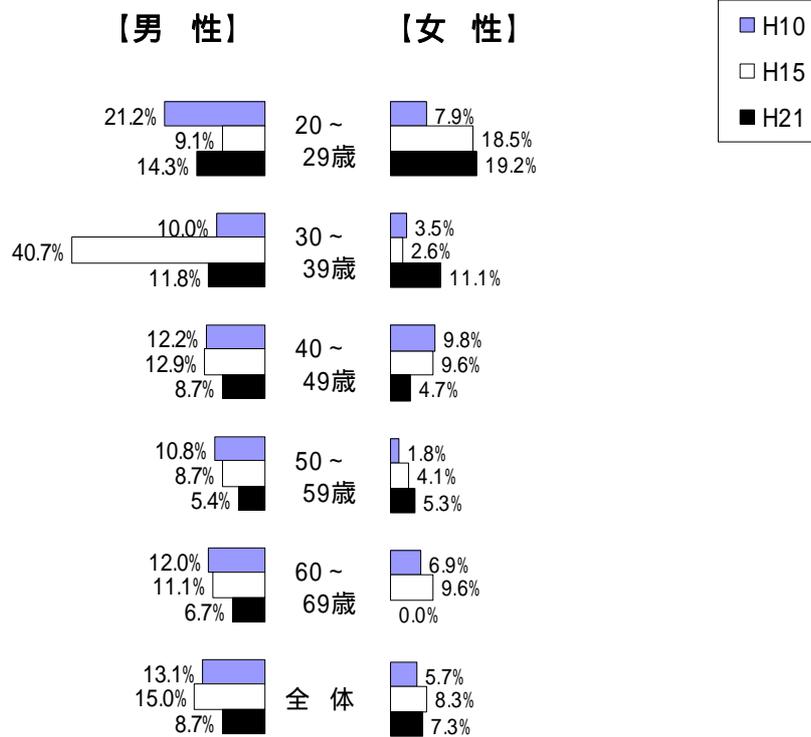
平等感が男性 8.7% 女性 7.3% と男女ともに大変低く、一方男性優遇感は男性 75.4% 女性 83.2% と同様に男女とも大変高い、不平等感が強く感じられている分野です。



全世代で男性優遇感を感じている割合が極めて高く、特に 50 代は男性 89.2% 女性 92.1% と男女とも約 9 割が男性優遇感を感じています。

一方、20, 30 代といった若い世代は平等感を感じている割合が他の年代に比べて高く、特に 20 代は男性 14.3% 女性 19.2% が感じています。また 20 代男性は女性優遇感を感じている割合も高く、28.6% と全年代で一番多くなっていますが、同年代の女性は 0% で女性が優遇されていると感じている人はいなく、男女間の意識の差が見られます。

【平等であると感じる割合の経年比較】



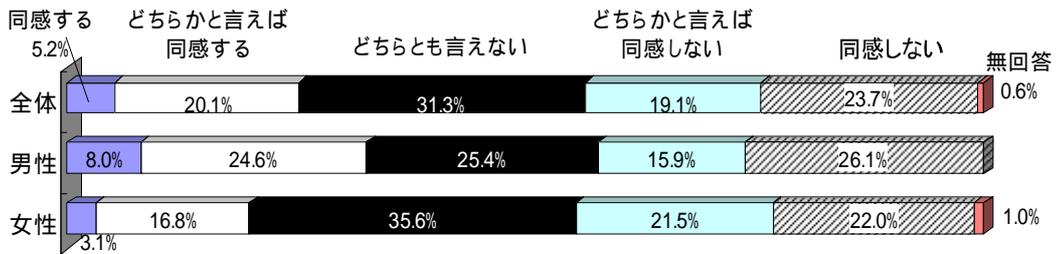
全3回の調査を通じて全体に数値が低く、男女とも前回微増したのが今回は減少しています。今回調査ではほとんどの年代・性別で1割に満たない数値になり、特に60代女性では平等感を感じていると回答した人はいませんでした。

その中で、20、30代女性は伸びており、特に20代は19.2%が平等感を感じていて、全体の中では突出して高く目立っています。

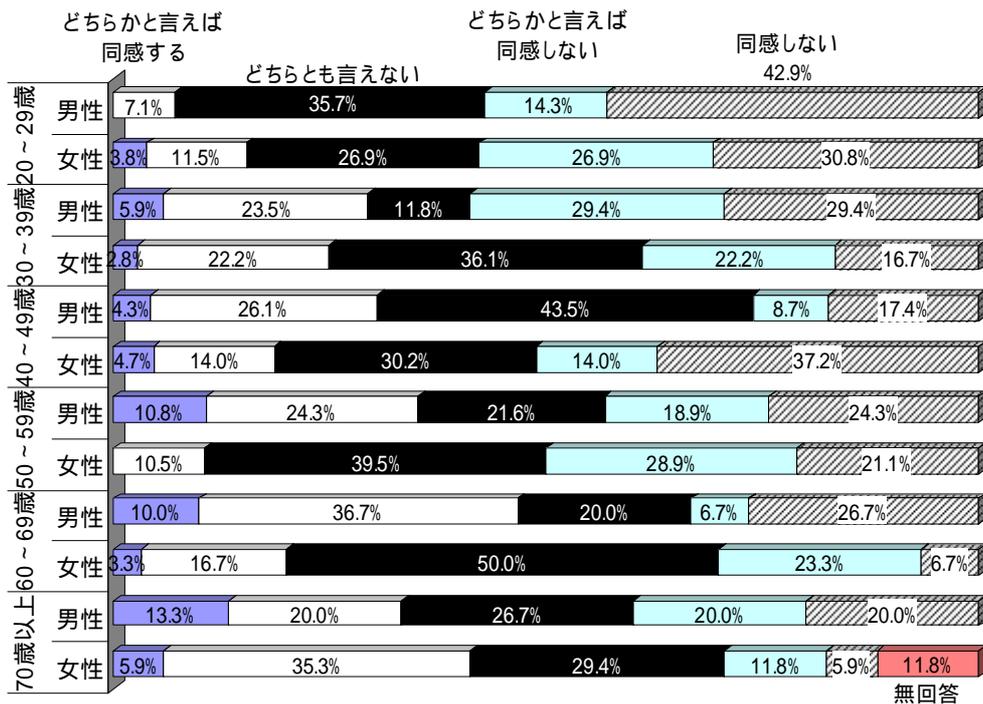
男女の役割分担や家庭生活について

問2 「男は仕事、女は家庭」というように性別によって役割を決める考え方について、あなたはどのように思いますか？

同感する どちらかと言えば同感する どちらとも言えない
 どちらかと言えば同感しない 同感しない

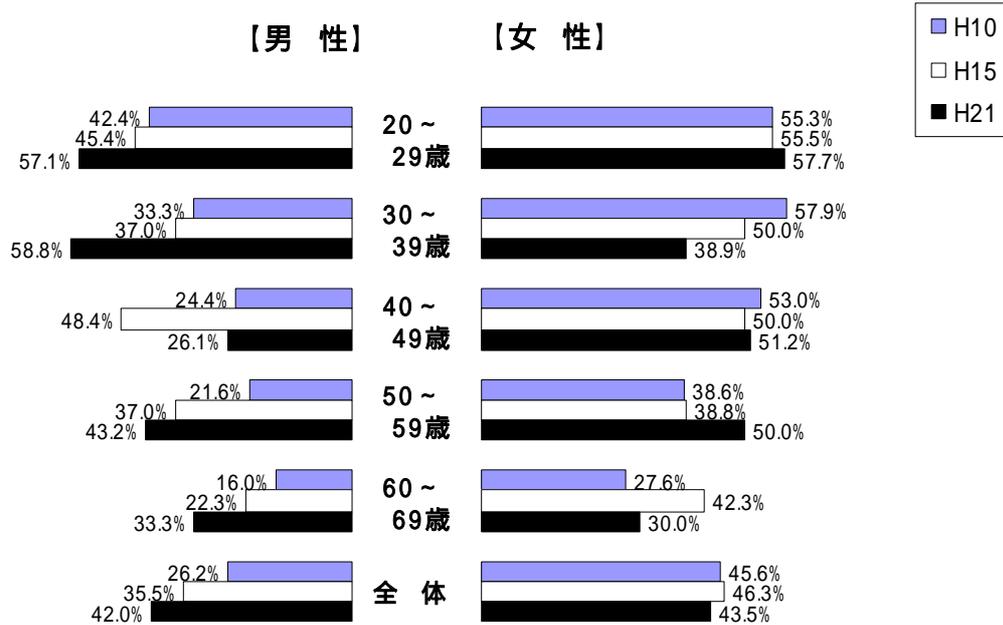


男女とも「同感しない」(合計) が「同感する」(合計) を上回っています。「同感しない」は男性 42.0% 女性 43.5% でほぼ同じ割合ですが、「同感する」は女性の 19.9% に対し男性は 32.6% で、男性の方が多く同感しています。



「同感しない」と回答した人の割合が男女とも高いのは 20 代で、男性 57.2%、女性 57.7% です。「同感する」が低いのは、20 代男性 7.1% に続き 50 代女性の 10.5% です。30~60 代では男女間で意識の開きがあります。30 代では男性の「同感しない」割合が高く、全世代でも一番高い 58.8% ですが、女性は 38.9% で大きな差ができています。一方 40 代では女性の方が「同感しない」割合が高く、男性 26.1% に対し女性 51.2% です。50、60 代では「同感する」男性が多くなっています。

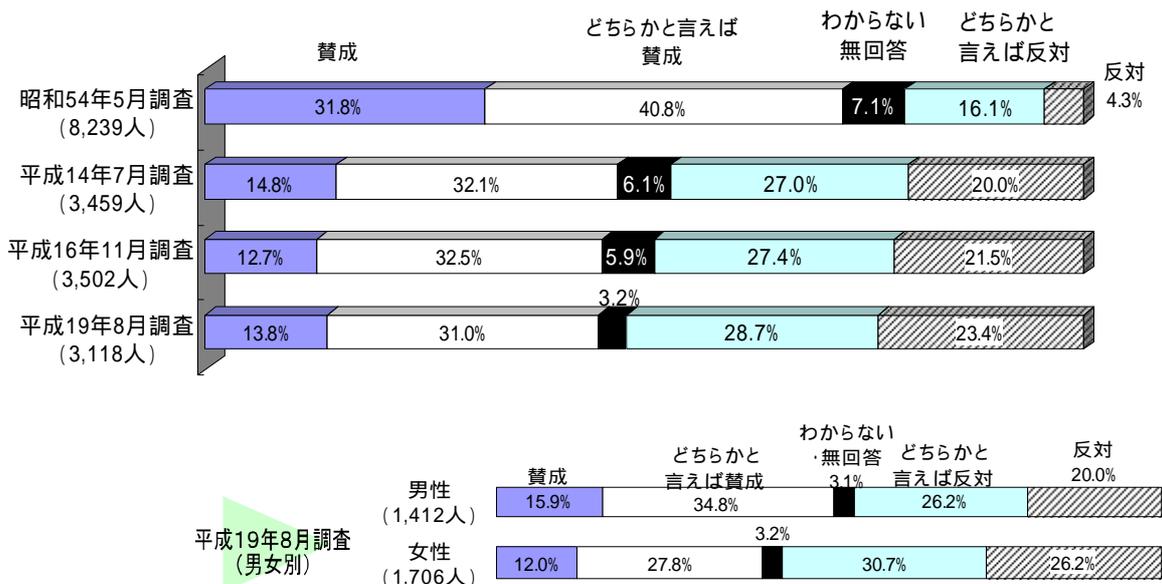
【「同感しない」「どちらかと言えば同感しない」と感じる割合の比較】



男性全体は大きく増加し、女性は横ばい、微減です。平成10年度調査では全ての年代で女性が男性を大きく上回っていましたが、今回の調査では全体で女性43.5%男性42.0%とほぼ同割合となり、更に30,60代では男性が女性の数値を上回って逆転しています。

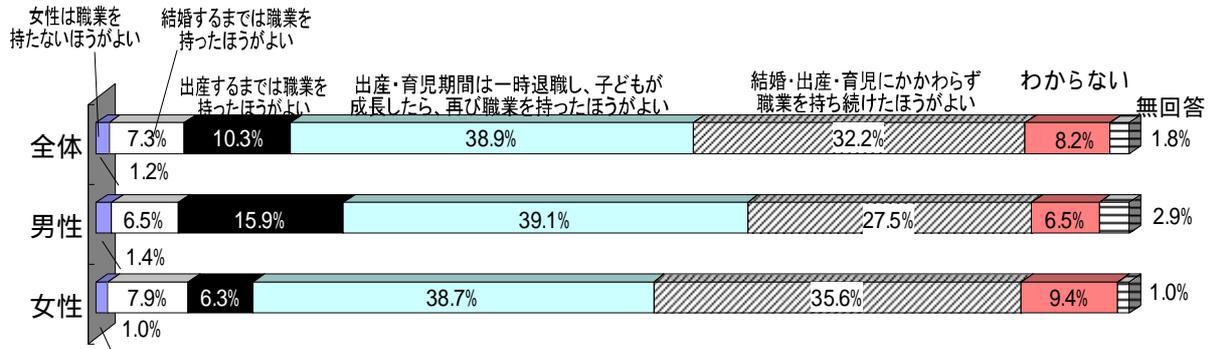
30,50,60代の男性は前々回に比べ倍近く増加し、また前々回は唯一1割台だった60代も3割台に増えました。一方、女性は横ばい又は減少の傾向にあり、減少が著しいのは30代で、前々回は57.9%だったのが、今回は38.9%と約4割に減少しています。

《参考》内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(平成19年8月)」



問3 女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか？

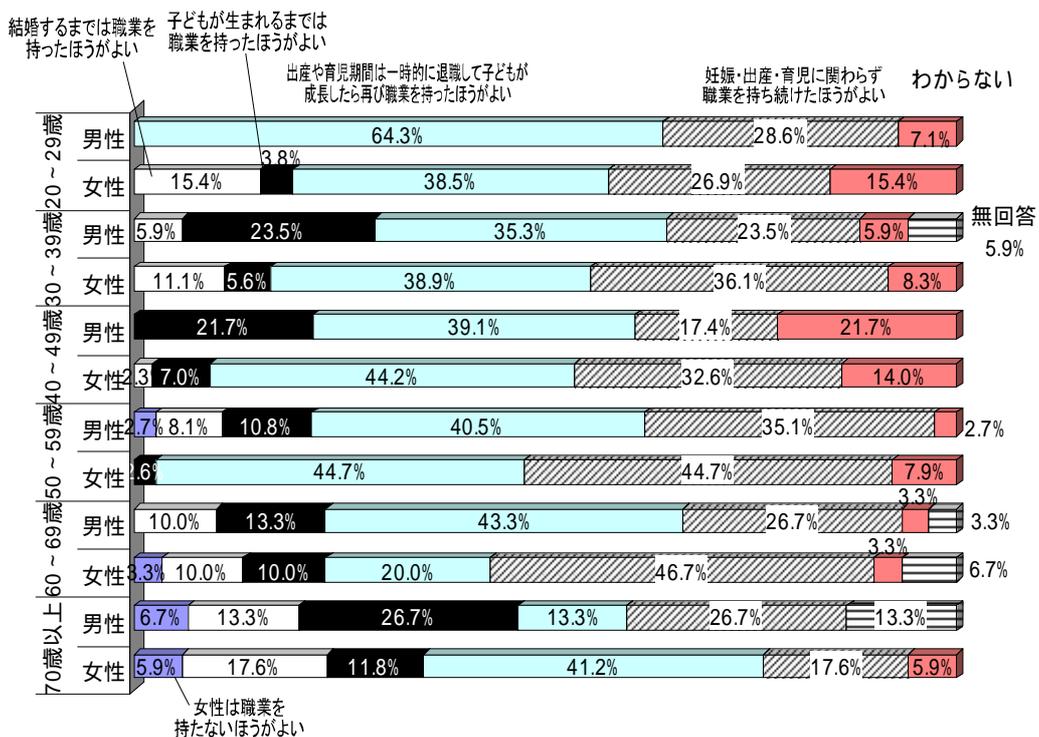
- 女性には職業を持たないほうがよい
- 結婚するまでは職業を持ったほうがよい
- 子どもが生まれるまでは職業を持ったほうがよい
- 出産・育児期間は一時的に退職して子どもが成長したら再び職業を持ったほうがよい
- 結婚・出産・育児にかかわらず、職業を持ち続けたほうがよい
- わからない



職業を持ち続ける（合計）方が良いと回答した割合は、女性 74.3%、男性 66.6%と高く、男女ともに女性が働くことに対して肯定的です。

一番多いのは、男女とも「出産・育児期間は一時的に退職して子どもが成長したら再び職業を持ったほうがよい」で、女性は 38.7%、男性は 39.1%が回答しています。次も男女同じで「結婚・出産・育児にかかわらず、職業を持ち続けたほうがよい」が女性 35.5%、男性 27.5%です。

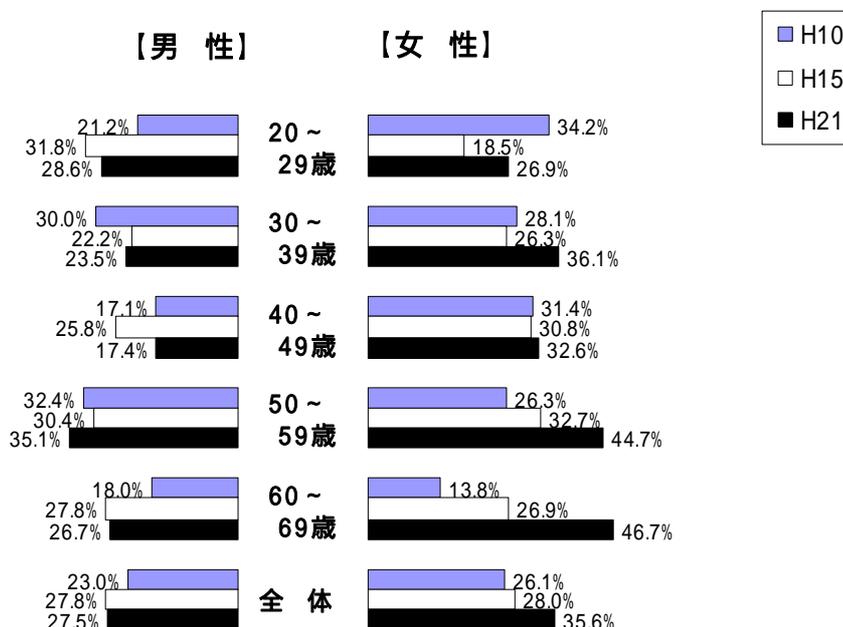
「結婚するまでは職業を持ったほうがよい」は女性 6.3%に対し男性 15.9%で、男性の方が多く望んでいます。



女性は年代があがるほど職業を持ち続けることを肯定する割合（合計）が高くなる傾向にあり、20代女性の65.4%から50代の89.4%にまであがっていきます。更に「結婚・出産・育児にかかわらず、職業を持ち続けたほうがよい」と回答した女性の割合は、20代女性は26.9%から50代で44.7%、60代で46.7%と、ほぼ5割まで伸びています。男性で目立つのは20代で、92.9%が職業を持ち続けることに肯定的ですが、同年代の女性が65.4%と意識の差があります。

「仕事はせず（辞めて）専業主婦に」（合計）と回答した人の割合は30代以上は男性の方が高くなっていますが、同世代の女性は「仕事を持った方がよい」と考えている割合が多く、意識の差が生じています。

【「結婚・出産・育児にかかわらず、職業を持ち続けた方がよい」の割合の比較】



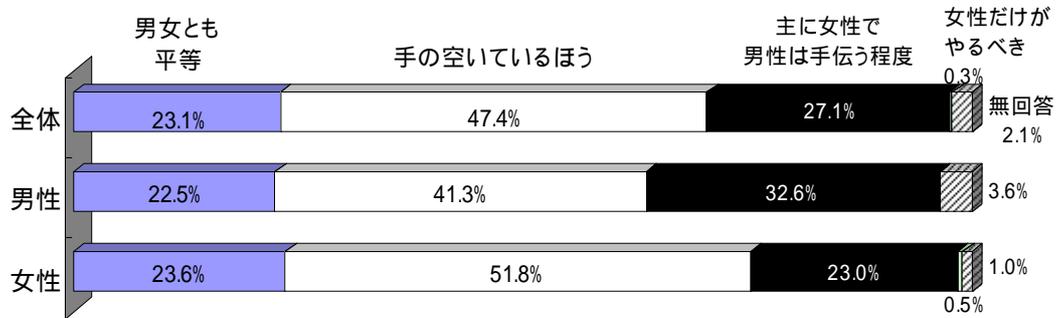
平成10年、15年度調査では男女ほぼ同じ割合でしたが、今回は男性が微減に対し女性は数値を伸ばし、意識の差が出ました。男性より女性の方が、女性の就業に対して積極的になっています。

女性は全世代で上がっています。中でも50、60代は44.7%、46.7%と2人に1人が「持ち続けた方がよい」と考えています。特に60代は前々回調査では13.8%から大きく伸びました。

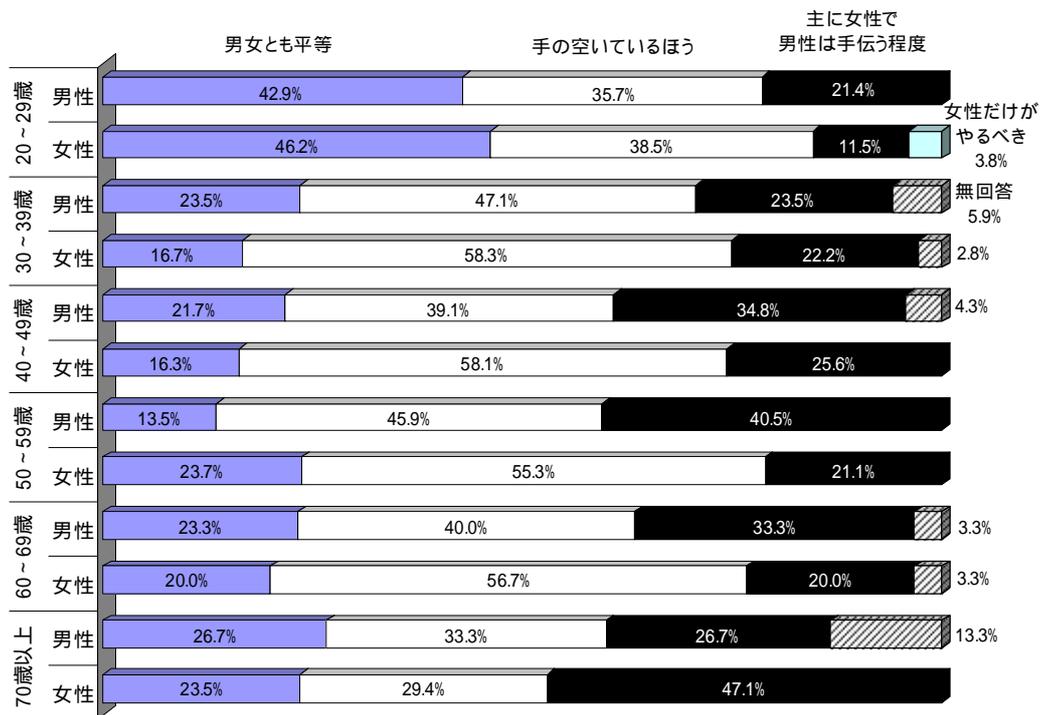
男女間で意識の差が大きいのは、40代と60代で、特に40代は女性の32.6%に比べ男性は17.4%と全世代・性別でも一番低く唯一の10%台で、差が開いています。

問4 家事や育児の役割分担について、あなたはどのように考えますか？

- 男女とも平等にするのがよい
- 手の空いているほうがよければよい
- 主に女性がやり、男性は手伝う程度でよい
- 主に男性がやり、女性は手伝う程度でよい
- 女性だけがやるべき
- 男性だけがやるべき

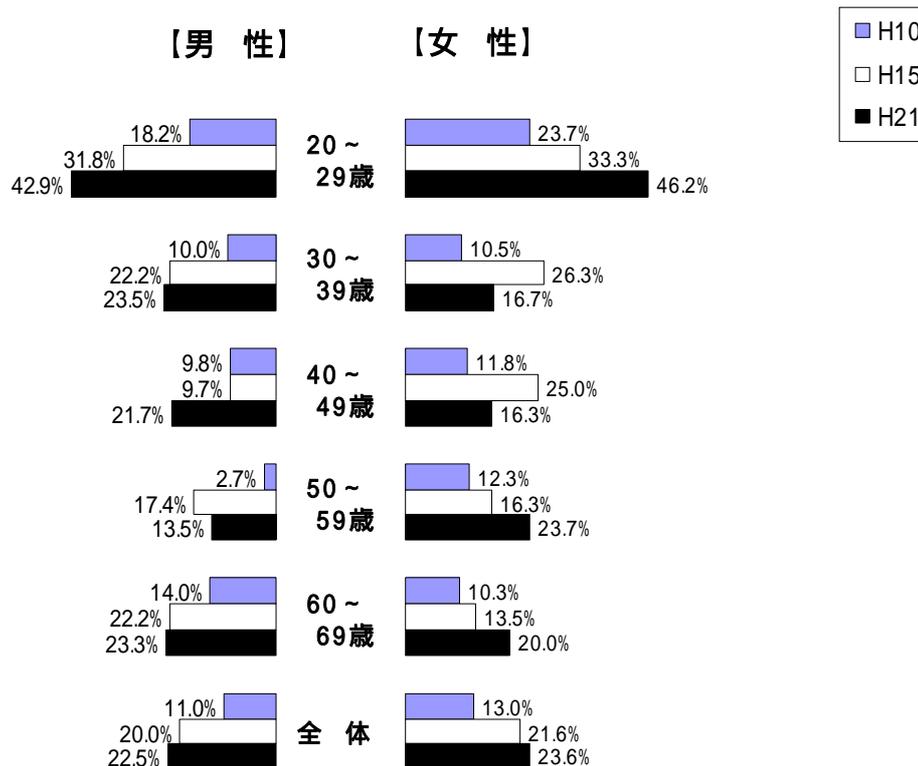


最も多いのは「手の空いているほうがよければよい」で、男性 41.3%に対し女性 51.8%と女性の方が多く回答しています。次に割合が多いのは、男性が「主に女性がやり、男性は手伝う程度でよい」32.6%であるのに対し、女性は「男女とも平等に」23.6%です。「男女とも平等に」と考える男性は22.5%で、女性とほぼ同割合です。



20代は「男女とも平等」の割合が男性 42.9%女性 46.2%と、男女とも全世代の中で突出して高くなっています。30～60代は「手の空いているほうがよければよい」が多く、また常に女性の方の割合が多くなっています。また 20～60歳代の「主に女性で、男性は手伝う程度」の割合は常に男性の方が多く、特に 40～60代の男女間の意識のズレが大きくなっています。

【「平等がよい」と回答した割合の比較】



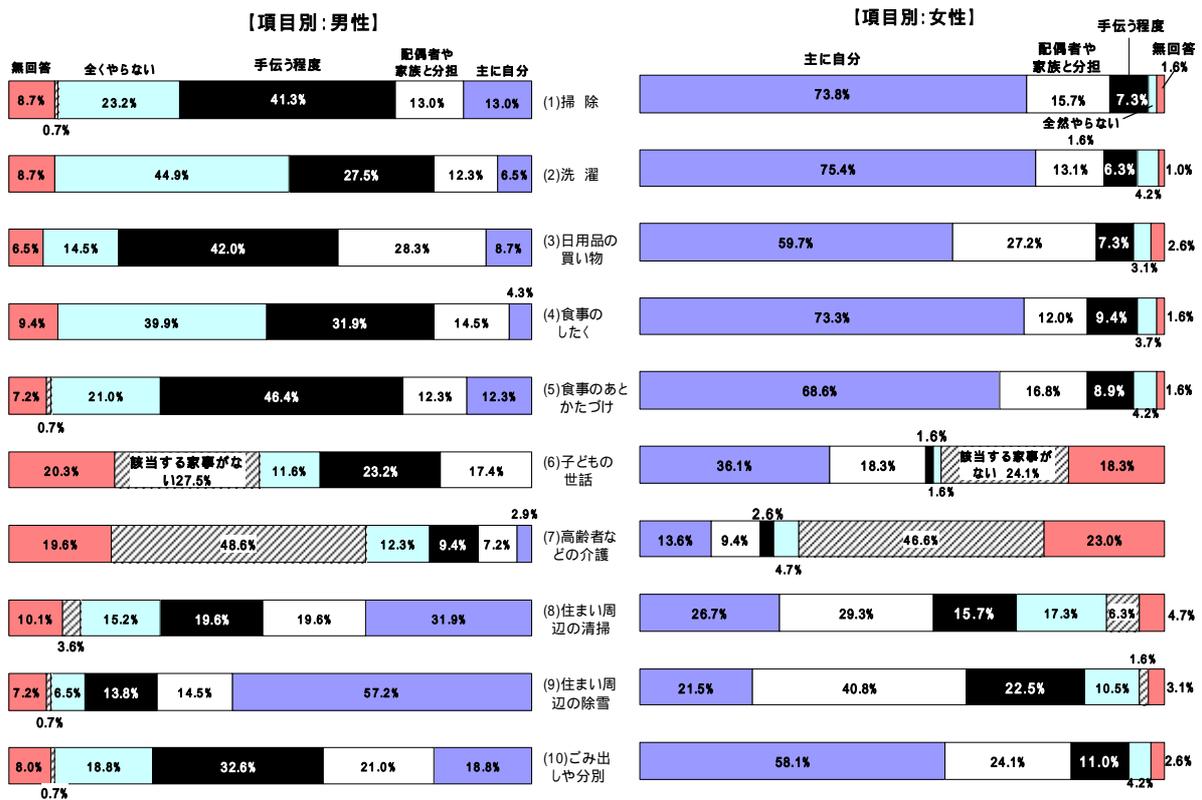
全体に増加しています。目立つのは20代で、平成10年度調査では男性18.2%女性23.7%と男女とも2割前後だったのが、今回は男性42.9%女性46.2%となり、2人に1人が「平等がよい」と回答しています。当時も20代は他の年代に比べ高い割合でしたが、今回は更に大きく差を広げました。

男性が全世代で伸びているのに対し、女性は30, 40代の割合が下がっており、前々回よりはあがっているものの数値は低く1割台で、同世代では男性の方が「平等がよい」と考える割合が高くなっています。

問5 あなたは下の項目の家事をどれくらいしていますか？

- (1) 掃除 (2) 洗濯 (3) 日用品の買い物 (4) 食事のしたく
 (5) 食事のあとかたづけ (6) 子どもの世話 (7) 高齢者などの介護
 (8) 住まいの周辺の清掃 (9) 住まいの周辺の除雪 (10) ごみ出しや分別

〔 主に自分 夫(妻)家族と分担 手伝う程度 全然やらない 該当する家事がない 無回答 〕

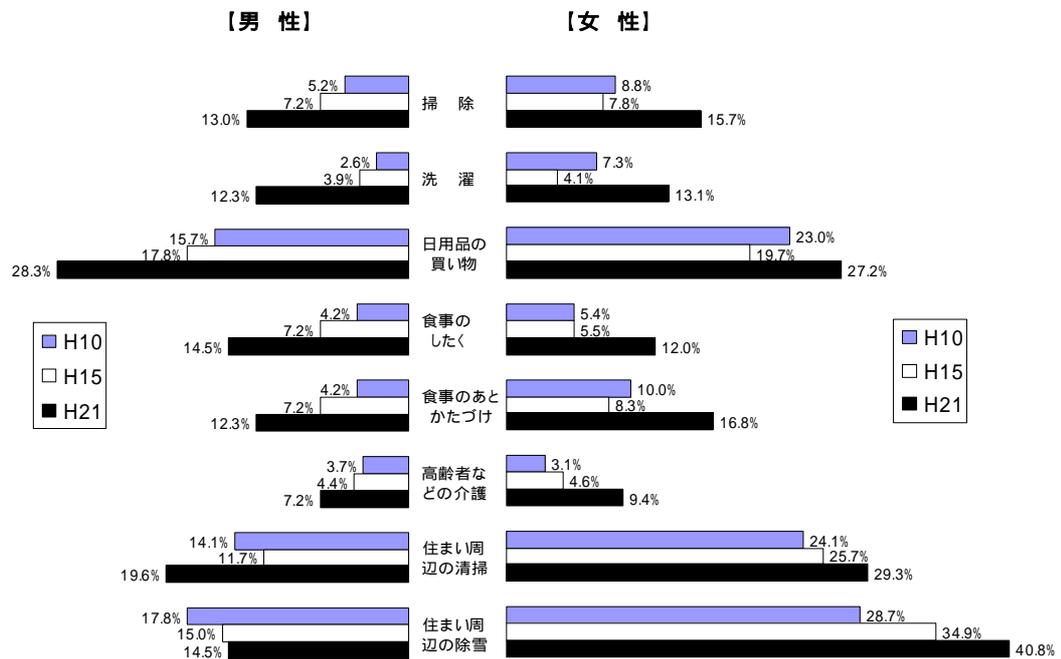


家事の多くは女性が「主に自分」として担っていて、特に「洗濯」「掃除」「食事のしたく」は7割以上の女性が自分の仕事として行っています。

「配偶者や家族と分担」と回答しているのは、女性が「住まい周辺の除雪」40.8%、「住まい周辺の清掃」29.3%、「日用品の買い物」27.2%、「ごみ出しや分別」24.1%の順で多く、男性は「日用品の買い物」28.3%、「ごみ出しや分別」21.0%、「住まい周辺の清掃」19.6%となっていて、「除雪」と「住まい周辺の清掃」については男性が「自分の仕事」、女性は「分担でやっている」という認識のずれが現れています。

【「配偶者や家族と分担」と回答した割合の比較】

H10 年度調査から訊いている項目のみ



全体に上がっています。特に「掃除」「洗濯」「食事のしたく」は「主に女性の仕事」と認識されており、平成 10 年度調査時には男女とも 1 割未満でしたが、前回調査時に続き今回も数値を伸ばし、男女とも 1 割を超えました。また「高齢者などの介護」も、3 回の調査を通じて男女とも 1 割に満たない結果ではありますが、伸び続けています。

男女間で認識がずれているのが「住まい周辺の除雪」「住まい周辺の清掃」で、男性が「主に自分が実施している」と認識しているこの 2 項目について、特に除雪は男性 14.5% に対し女性は 40.8% が分担していると認識しています。

問6 子育てに関するさまざまな考え方があります。

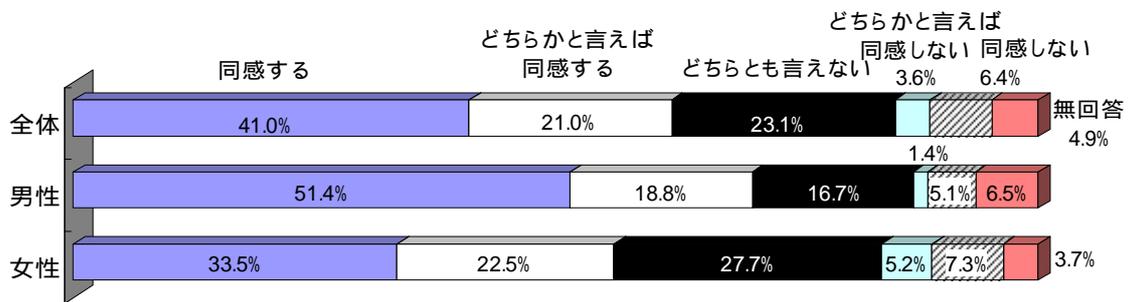
あなたは下の項目についてどのように考えますか？

- (1) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい
- (2) 3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい
- (3) 保育園や幼稚園の送り迎えやお弁当づくりは母親の役目である
- (4) 家事の手伝いは男女平等にさせるほうがよい

同感する
どちらかと言えば同感する
どちらとも言えない

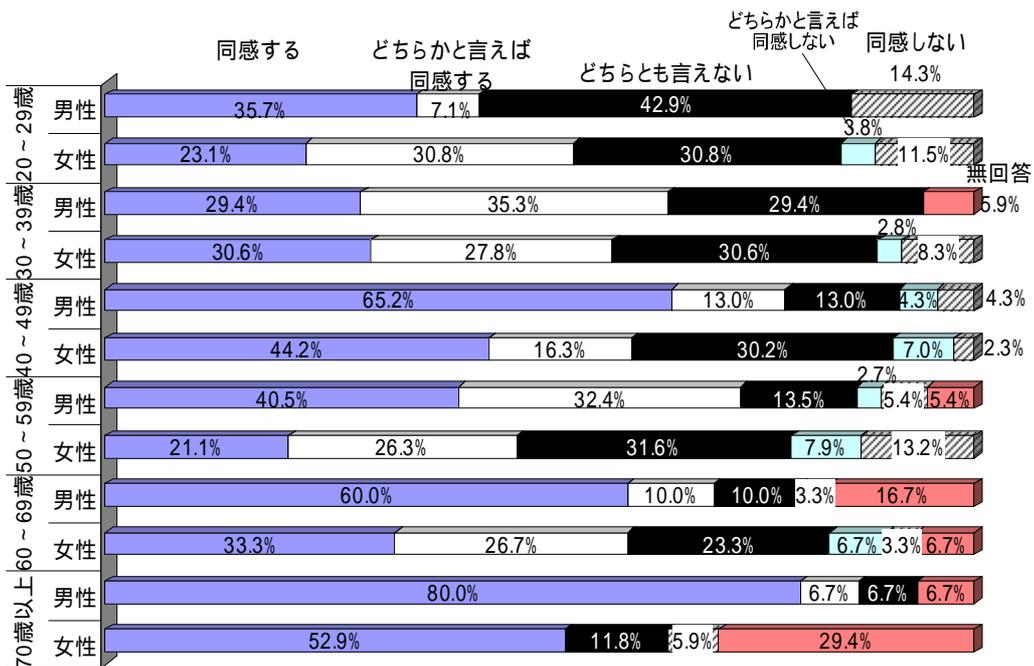
どちらかと言えば同感しない
同感しない

(1)女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい



男女とも一番多いのは「同意する」ですが、女性 33.5%に対し男性は 51.4%と 2人に1人が「同意する」回答しています。次に多いのは男性は「どちらかと言えば同意する」で 18.8%ですが、女性は「どちらともいえない」27.7%で男女の意識の違いが見られます。

「同意しない」「どちらかと言えば同意しない」でも女性 12.5%に対し、男性は 6.5%で、男性の方が女性よりも「男の子/女の子らしさ」について肯定的です。



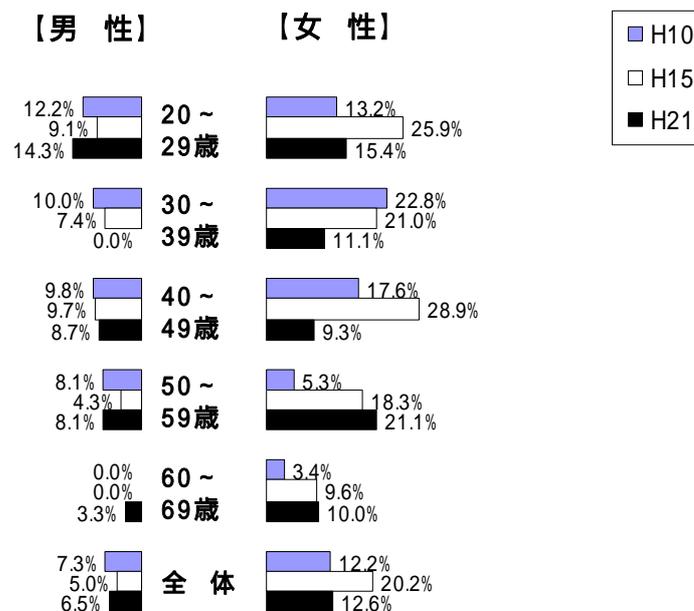
「同感」(合計) はほぼ全年代で男性の方が多く、一番少ないのは 20 代男性で 42.8%、一番多いのは 70 代男性の 86.7%です。20 代のみ女性の方が 53.9%で高くなっています。

一方「同感しない」(合計) はほぼ全年代で女性の方が多く、一番多いのは 50 代女性の 21.1%で、この年代の女性は「 同感する」も全年代の中で一番少なくなっています。

男女間の意識の差は 20 代ではあまりありませんが、40 代以上で大きくなっています。

【「同感しない」と回答した割合の比較】

「同感しない」と「どちらかと言えば同感しない」の合計

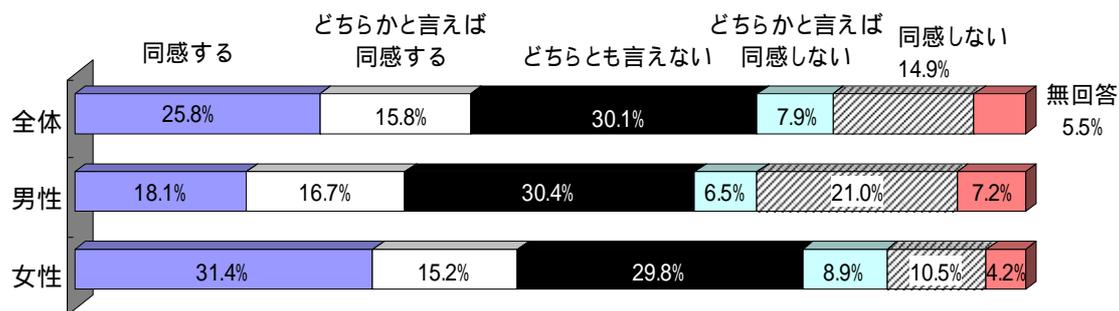


30、40代は男女とも過去最低になりました。今回 30 代男性には「同感しない」と回答した人はいません。また 40 代女性は前は同感しない人の割合が女性の全年代の中で一番高かったのが、今回は女性の全年代の中で一番低くなりました。

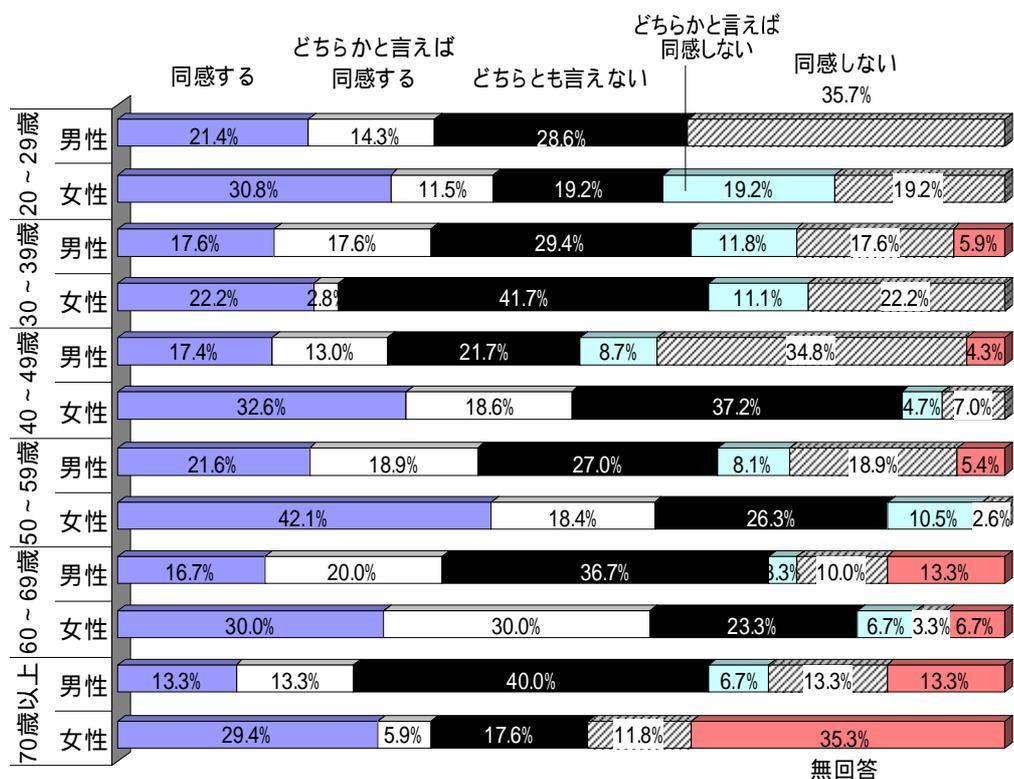
若い世代（20 代）は平成 10 年度調査時の割合とほぼ同じです（男性 14.3%、女性 15.4%）。20 代男性は、男性の全年代の中では一番割合が多くなっています。

50 歳以上では増加の傾向があり、特に 50 代女性は前々回調査では 5.3%だったのが今回は 21.1%と男女合わせた全年代の中で一番高く、5 人に 1 人が選択しています。

(2) 3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい



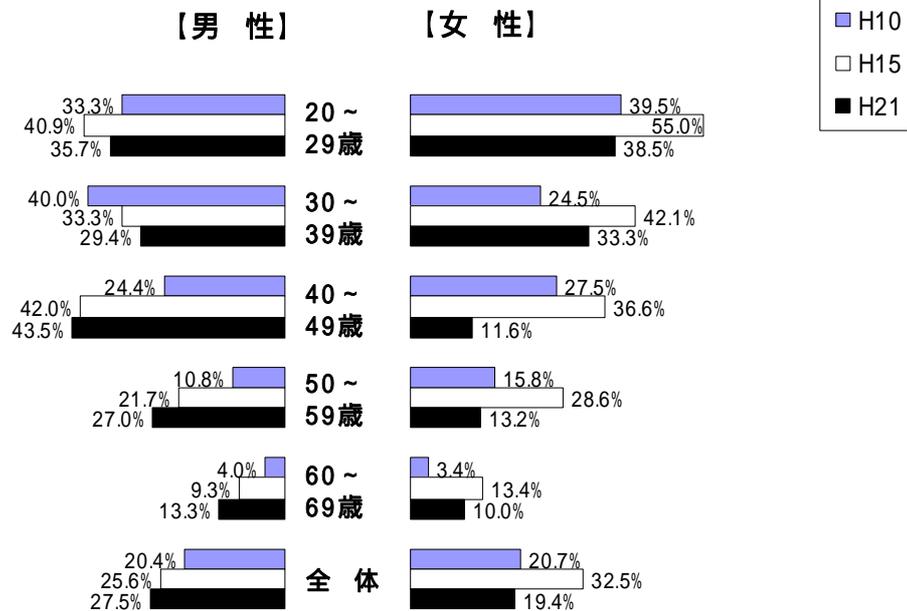
「同意」(合計) と回答した女性が 46.6% と男性 34.8% に比べて多く、一方「同意しない」(合計) と回答した女性は 19.4% は男性 27.5% に比べて少なく、男女間の意識の違いが出ています。男性よりも女性の方が、女性による子育てについて肯定的です。



20,30代は男女の意識はほぼ同じです。40代になると差が開いてきます。20,30代は「同意しない」(合計) が男女とも3割代ですが、女性は40代で11.7%に下がり、年代があがってもほぼ同値の低い数字で推移し、また「同意」(合計) も30代で25.0%なの、40代で51.2%と倍に増え、この女性の意識の変化により男女間の意識にも差が出てきています。

【「同感しない」と回答した割合の比較】

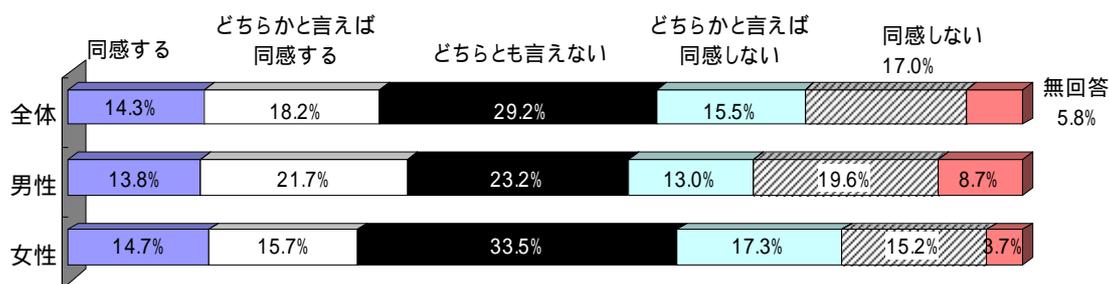
「同感しない」「どちらかと言えば同感しない」の合計



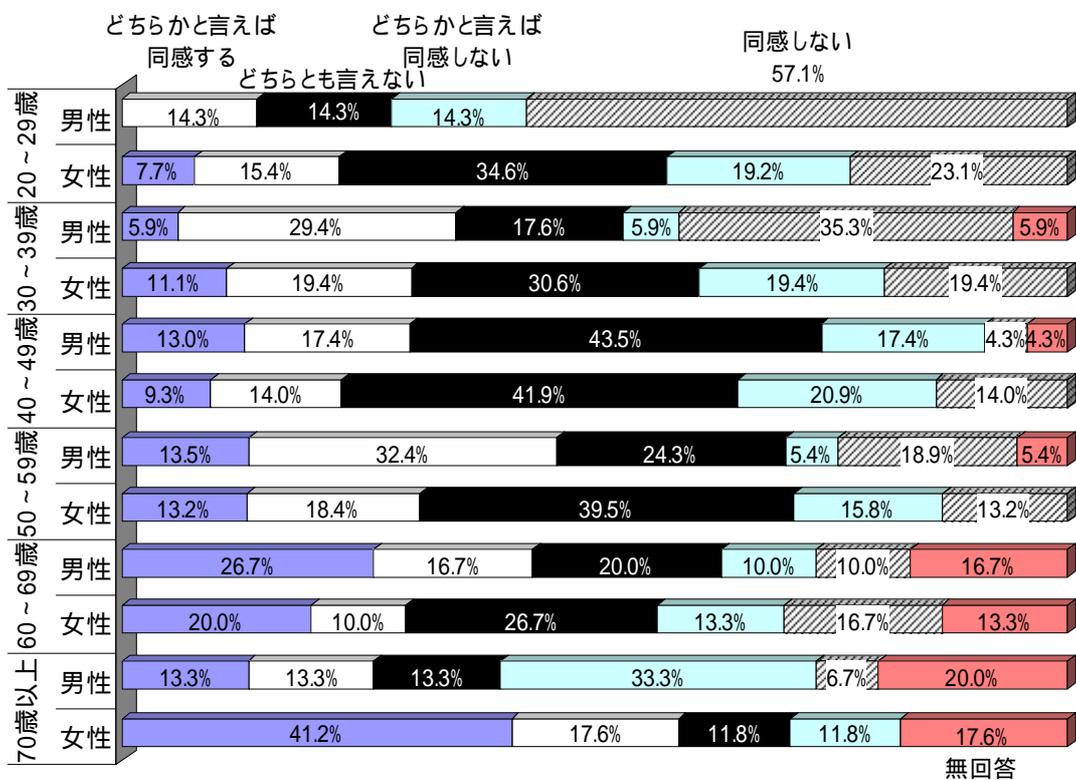
男性は40代以上は増加していますが、30代は減少し、また20代男性と女性の全年代では平成15年度調査であがったのが今回下がり、平成10年度調査の数値とほぼ同値になっています。

若い年代の数値が高く、年代が上がると低くなる傾向は変わりません。今回調査では、ほぼ全年代・性別で前回に比べて減少していますが、40代以上の男性のみ前々回調査から増加を続けています。

(3) 保育園や幼稚園の送り迎えやお弁当作りは母親の役目である



「同感」(合計)は男性 35.5%、女性 30.4%、「同感しない」(合計)は男性 32.6%、女性 32.5%といずれもほぼ同値です。男性の方が同感する割合がやや高くなっています。

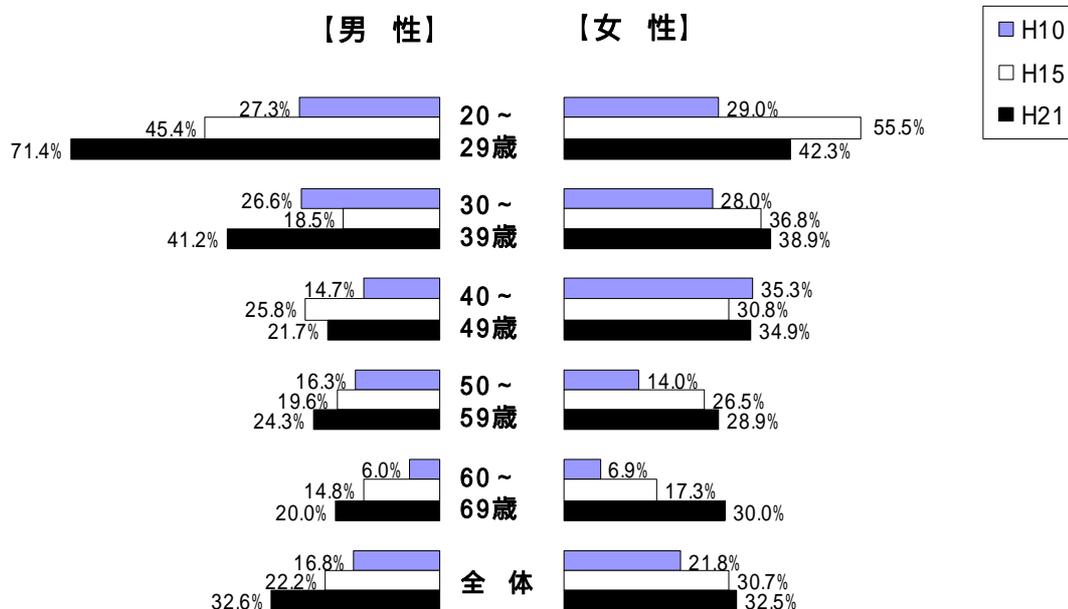


「同感しない」(合計)が一番多いのは 20 代男性の 71.4%で群を抜いて高く、次に 30 代男性の 41.2%、70 代男性の 40.0%が続きます。一方「同感」(合計)が一番多いのは 70 代女性で 58.8%で、次に 50 代男性の 45.9%が続きます。

男女の意識に差があるのは 20 代と 70 代で、多くの男性が「同感しない」と考える一方、女性は「同感する」と考えています。

【「同感しない」と回答した割合の比較】

「同感しない」と「どちらかと言えば同感しない」の合計

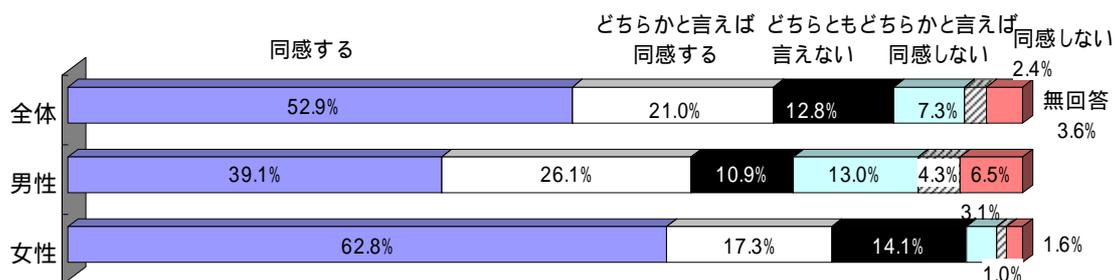


全体的に上がっており、特に男性の割合が大きく上がっています。平成 10 年度調査ではほとんどの年代で 10、20% 台だったのが、今回は 20 ~ 40% 代に上がっています。若い年代の数値が高いのは変わりません。

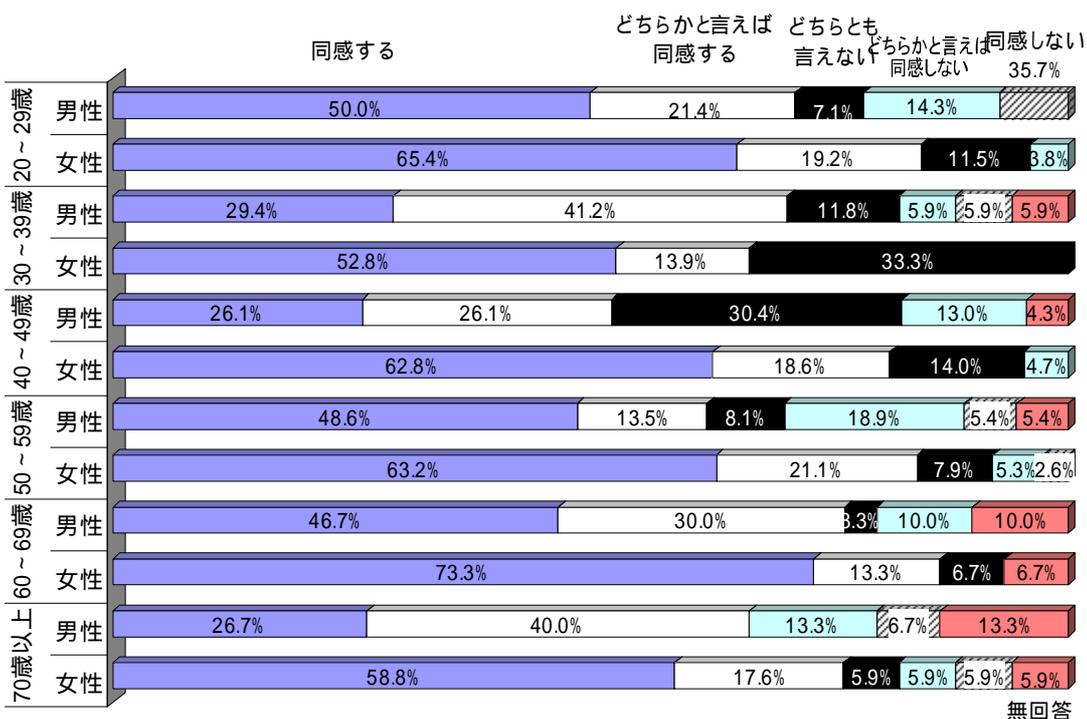
伸び方が顕著なのが 20 代男性で、平成 10 年度調査では 27.3% だったのが今回 71.4% になりました。また 70 代は、平成 10 年度には男女とも 6% 代だったのが、今回は 20.0%、30.0% に増え、他の年代との変わらなくなりました。

また、平成 15 年度調査まではすべての年代で女性の数値が高かったのですが、今回は 20、30 代で男性の数値が女性を上回っています。

(4) 家事の手伝いは男女平等にさせるほうがよい



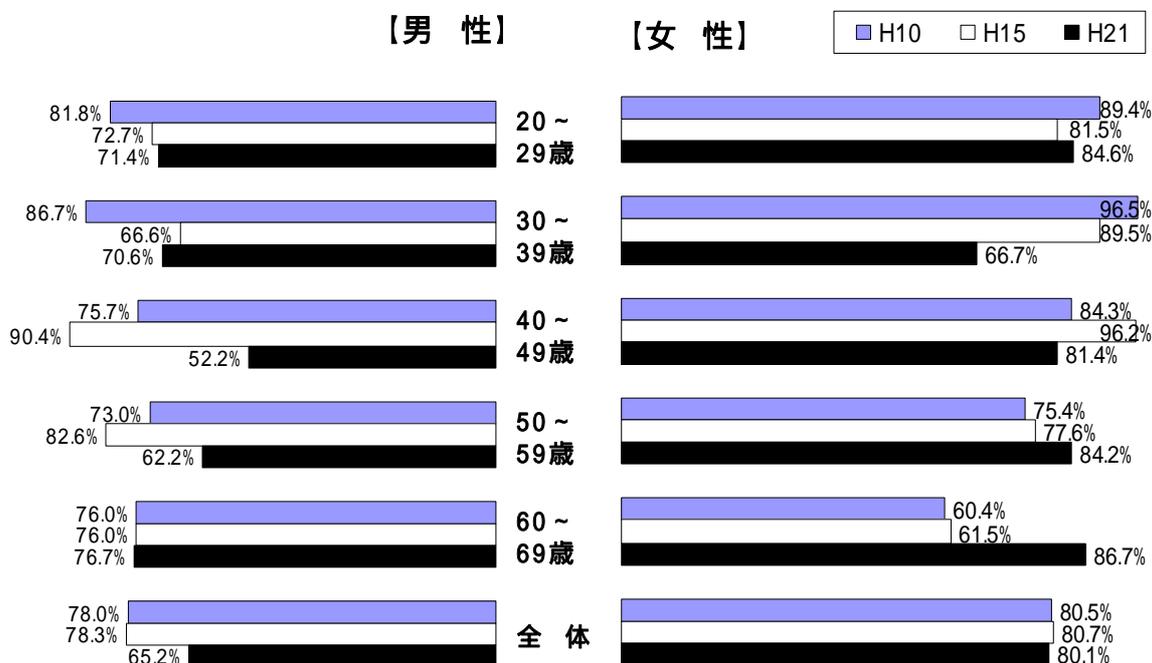
「同感」(合計) と答えたのは女性が多く 80.1% で、男性の 65.2% を大きく上回っています。「同感しない」(合計) は男性の方が多く 17.3% で、女性の 4.1% を大きく上回っていて、女性が肯定しているほど男性は肯定していません。



どの年代も「同感」(合計) が高い割合を示しています。
 「同感しない」(合計) はどの年代も男性の方が高く、一方女性は30、60代は0%など、全世代で大変低くなっています。
 男女の意識の差が大きいのが40代で、「同感」と感じる割合が女性81.4%に対して男性は52.2%と全年代・性別で一番低く、男女間で大きな差が開いています。

【「同感する」と回答した割合の比較】

「同感する」「どちらかと言えば同感する」の合計

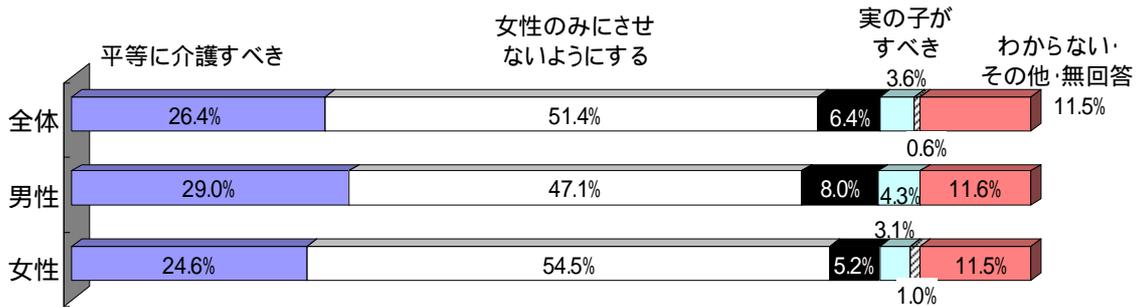


女性は40代までは減少傾向、50代以降は増加傾向にあります。特に、前2回の調査では他の年代に比べ低く60.4、61.5%と推移していた60代は、今回86.7%と大きく伸びました。一方30代は96.5%、89.5%と高い数字で推移していましたが、今回は66.7%と減少し、他の年代が8割台なのに対して大きな差が開きました。代わりに「どちらとも言えない」が増えています。

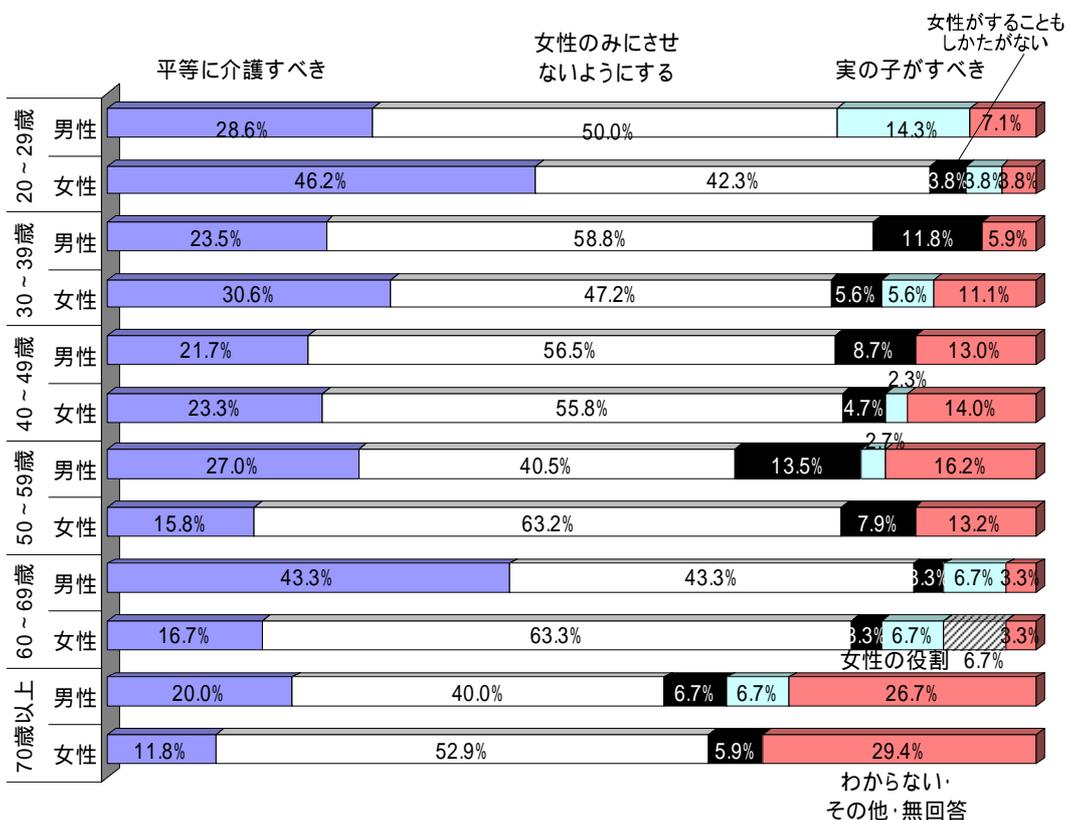
男性は減少又は横ばいです。ほとんどの年代で、平成10年度調査時の数字よりも下がっており、特に30～50代の減少が目立ちます。

問7 家族が寝たきりなどになった場合の介護について、あなたはどのように考えますか？

- 男女とも平等に介護すべき
- 男性も努力して、女性のみ介護をさせないようにするのがよい
- 男性は働いている場合が多いので、女性が介護することはしかたがない
- 男女に関わらず実の子が介護をすべき
- 介護は当然女性の役割だと思う
- わからない
- その他



男女の意識の差はあまりありません。「平等にすべき」は男性が 29.0%、女性が 24.5% で男性の方が平等意識がわずかに高くなっています。一番多いのは「男性も努力して女性のみをさせない」で女性 54.5% 男性の 47.1% と、男女とも 2 人に 1 人の人が選んでいます。また、「男性も努力して女性のみをさせない」に「女性がすることもしかたがない」「女性の役割」を足すと男性 55.1% に対し女性 60.7% で、男性より女性の方が介護は女性の役割と考えています。



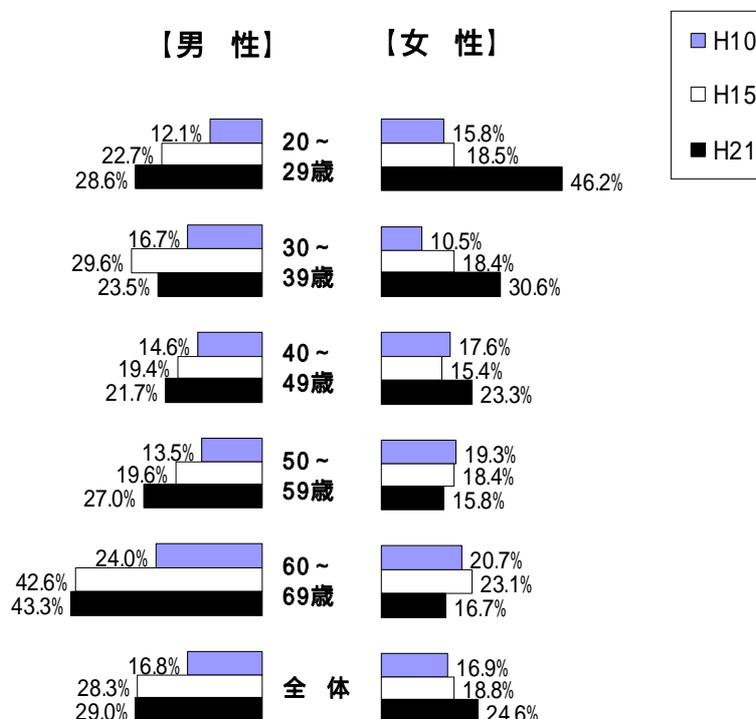
「女性のみによさせない」はほぼ全年代で一番多くなっています。「平等にすべき」は若い世代で高く、特に女性は年代があがるにつれて割合が下がる傾向にあり、その差も 20 代女性の 46.2% に対し 60 代女性の 16.7% と大きくなっています。

平等感が強いのが 20 代女性で、「平等にすべき」の割合が 46.2% と一番多く、2 人に 1 人が回答しています。

60 代は男性は平等感が強い一方、女性は「女性の役割」と考える傾向があります。男性は 43.3% が「平等にすべき」と答え、前後の年代に比べ突出しています。「女性のみによさせない」も 43.3% と同じ割合です。一方同年代の女性は「女性のみによさせない」が 63.3% と全年代でも一番高く、更に唯一「女性の役割」と回答した方がいました。

➤ 「その他の意見」の詳細は、P 5 8 をご覧ください

【「平等にすべき」と回答した割合の比較】



全体的に上がっています。また、平成 10 年度調査では男女ともに年齢が高くなるにつれ「平等にすべき」と回答した割合も高くなる傾向にあったのが、今回の調査では、男性は 60 代は依然として高いものの他の年代は平均的になり、女性は年代があがるにつれて下がる傾向にあります。

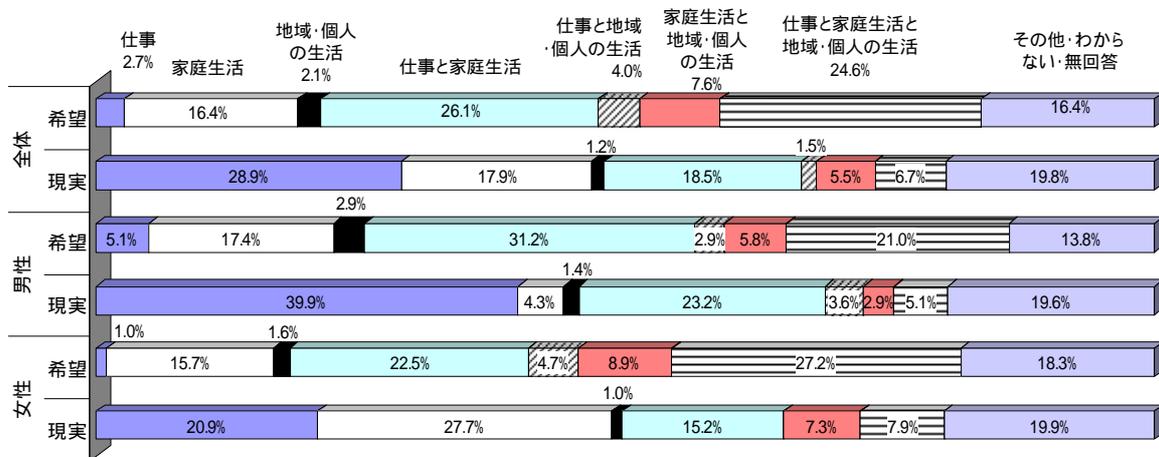
特に伸びたのは 20 代女性で、前々回調査時には 15.8% と女性の中では低い方だったのが、今回は 46.2% に伸び全世代・性別の中でも一番高くなりました。

平成 10 年度調査で唯一の 20% 台という高い数値を示した 60 代は他の世代と異なる傾向にあり、男性は伸びて 20 代女性に次ぎ 43.3% と高くなった一方、女性は減少し 16.7% と男女間の意識の差が大きくなっています。

仕事と家庭の調和について

問8 次の項目で、あなたが希望するライフスタイルに最も近いものとあなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか？

- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」とともに優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」とともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先
- その他 わからない



「希望」の優先順位で一番多いのは、男性が『「仕事」と「家庭生活」』で31.2%、次に『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』で21.0%です。女性は順序が逆になり、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』が一番多く27.2%、次が『「仕事」と「家庭生活」』で22.5%でした。

「家庭生活」を含んだ項目を選んだ人は男性75.4%、女性74.3%、同様に「仕事」は男性60.2%、女性55.4%、「地域・個人の生活」は男性32.6%、女性42.4%。「家庭生活」は男女ほぼ同割合で優先したい割合が一番多い一方、「仕事」は男性の方が、「地域・個人の生活」は女性の方が多くなっています。

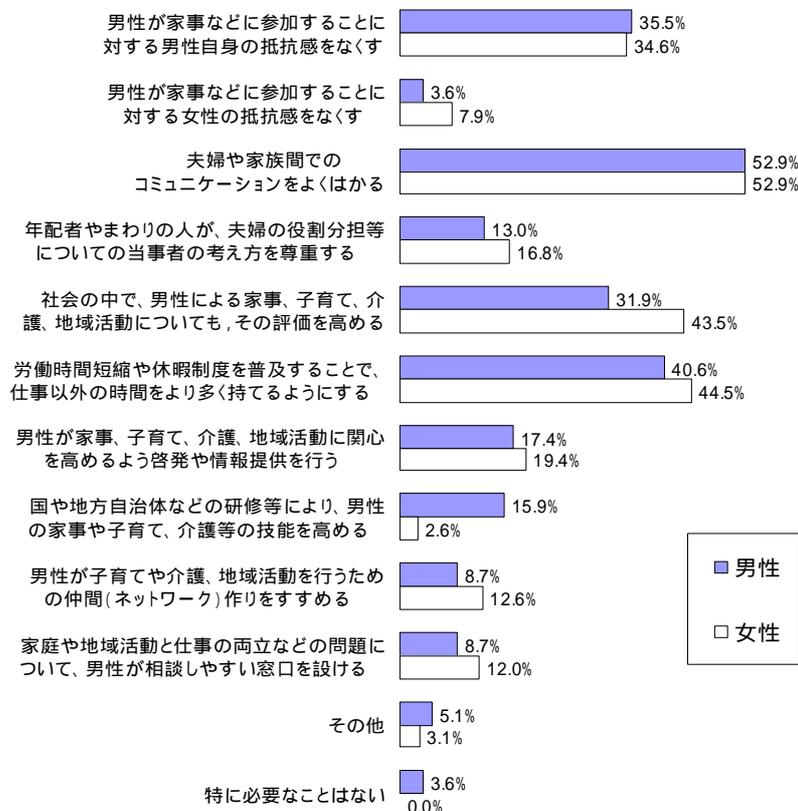
年代別に見ると、20、30代は40代以降に比べ「仕事」優先の傾向が少なく「家庭生活」優先が多くなっています。「地域・個人の生活」をいずれかで選択した人は、男性は20代、50代が20%台で少なく、30、40、70代が40%台で多いのに対し、女性は20代の30.8%から70代の52.9%まで年代があがるにつれて増えています。

「現実に最も近いもの」として選ばれた項目は、男女とも希望とは違っていました。一番多いのは男性が『「仕事」を優先』で39.9%、女性は『「家庭生活」を優先』で27.7%。男女とも多くの方が「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のいずれかを複数優先したいと考えていますが、現実には男性は「仕事」、女性は「仕事」または「家庭生活」のいずれか1つを優先している人が多い状況です。

「地域・個人の生活」を含んだ項目を選んだ人は、「希望」では20代男性の21.4%から70代女性の52.9%まで2～4割台が占めていますが、「現実」ではずっと低く、特に40代は男性8.7%（希望は43.5%）女性7.0%（同42.2%）と、全体の中でも希望している割合が高いのに現実の数値は他の年代より低く、理想と現実の差が大きい世代です。

問9 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか？

- 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
- 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める
- 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
- 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめる
- 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
- その他
- 特に必要なことはない



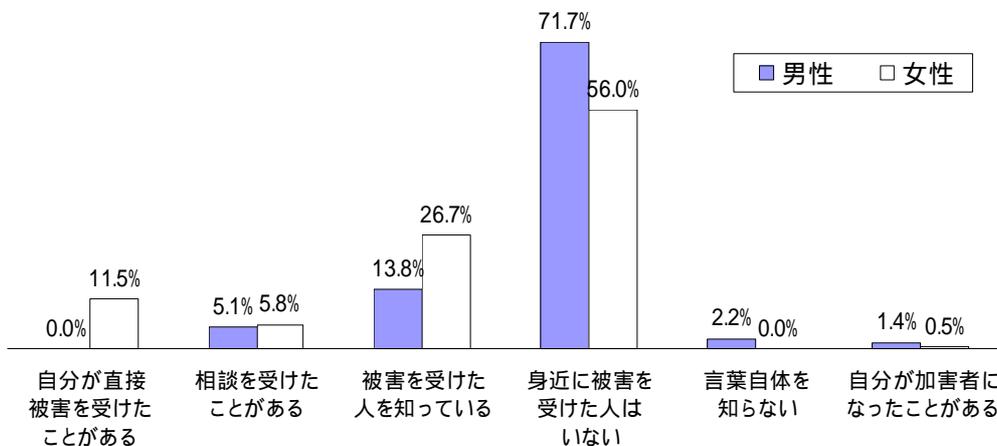
➤ 「その他の意見」の詳細は、57pをご覧ください

一番必要だと思われるのは「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」で、男女とも52.9%と2人に1人が選択しています。次に多いのは「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」の男性40.6%女性44.5%です。各項目の回答は男女同割合のものが多かったですが、女性の方が必要と感じているのは「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める」で男性31.9%に対し女性43.5%、また男性の方が必要と考えるのは「国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める」で、男性15.9%に対し女性は2.6%しかありませんでした。

男女の人権について

問10 配偶者等からの暴力(DV:ドメスティック・バイオレンス)について、あなたは身近で見聞きしたことがありますか？ (複数回答)

- 自分が直接被害を受けたことがある
- 相談を受けたことがある
- 被害を受けた人を知っている
- 身近に被害を受けた人はいない
- 言葉自体を知らない
- 自分が加害者になったことがある

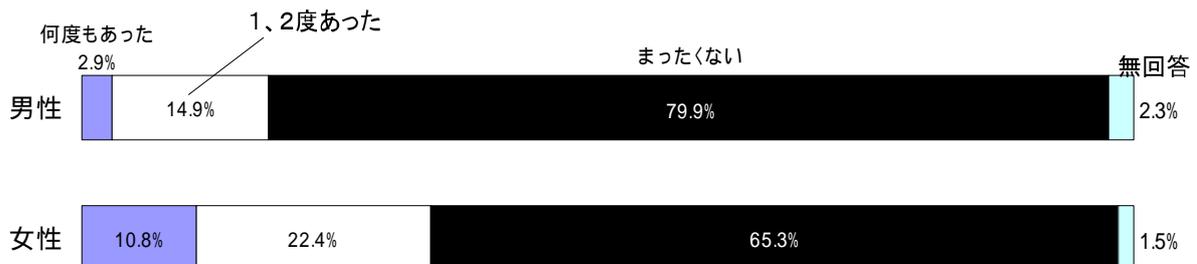


自分が直接被害を受けたことがある」と回答した人は女性のみで、11.5%と10人に1人が被害を受けたと回答しています。特に多いのが30代で22.2%と5人に1人が回答しています。

「被害を受けた人を知っている」と回答した人は、男性13.8%女性26.7%で、特に女性は4人に1人がDV被害者を知っていると回答しています。

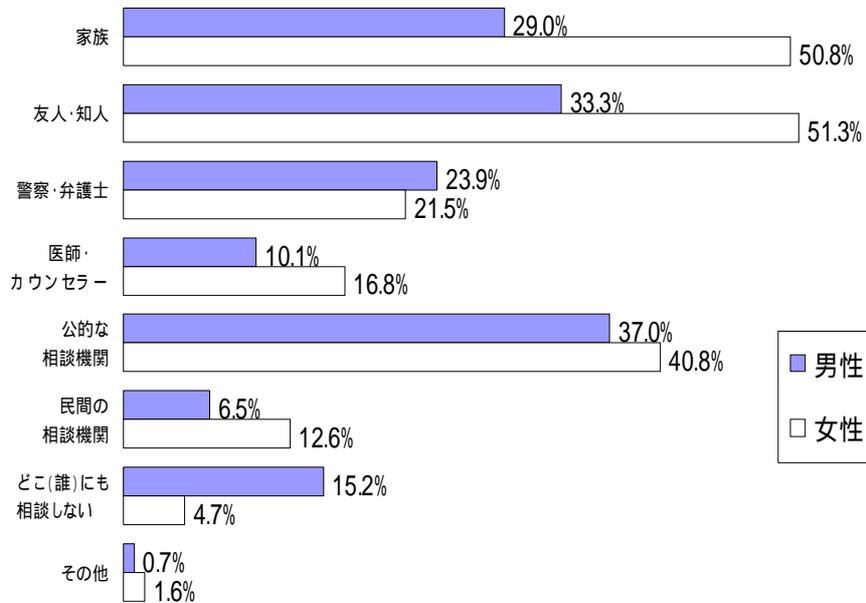
「自分が加害者になったことがある」は、男性1.4%（実数2人。うち50代1人、70代1人）と女性0.5%（実数1人。20代）から回答がありました。

《参考》配偶者からの暴力(内閣府「男女間における暴力に関する調査」平成20年)



問11 もしあなたが配偶者等からの暴力(DV:ドメスティック・バイオレンス)の被害にあったときは、どこ(誰)に相談しますか？ (回答は3つまで)

家族 友人・知人 警察・弁護士 医師・カウンセラー
 公的な相談機関 民間の相談機関 どこ(誰)にも相談しない
 その他



【 その他の意見 】

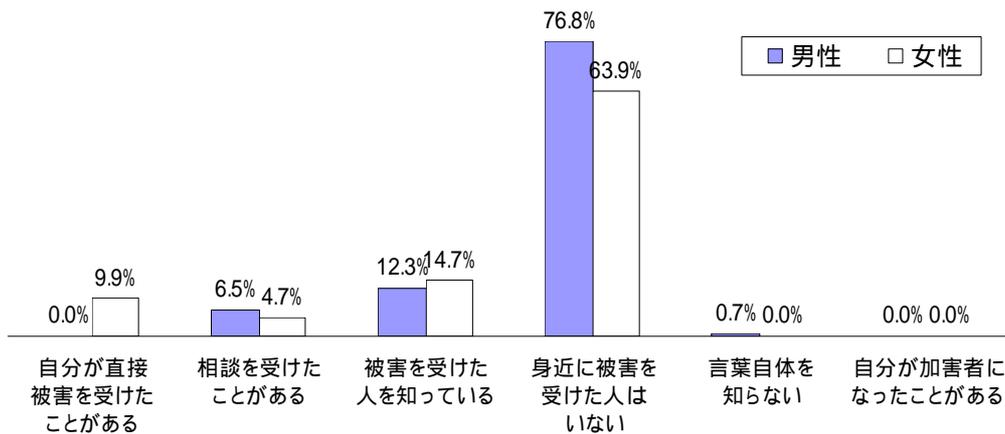
- 「誰にも相談できなかった」(30代女性)
- 「被害の程度によって相談相手が違う」(50代女性)
- 「自分の言葉使いに反省!!」(60代女性)
- 「子供に」(70代男性)

女性は「友人・知人」がもっとも多く 51.3%、次にほぼ同数で「家族」51.3%、そして「公的な相談機関」40.8%と続きます。一方男性は「公的な相談機関」がもっとも多く 37.0%で、「友人・知人」「家族」と続きます。

「どこ(誰)にも相談しない」と回答したのは女性 4.7%に対し男性は 15.2%で、女性は被害にあったときにはどこかに相談するのにに対し、男性は相談しない人が多い傾向があります。

問12 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)について、あなたは身近で見聞きしたことがありますか？ (複数回答)

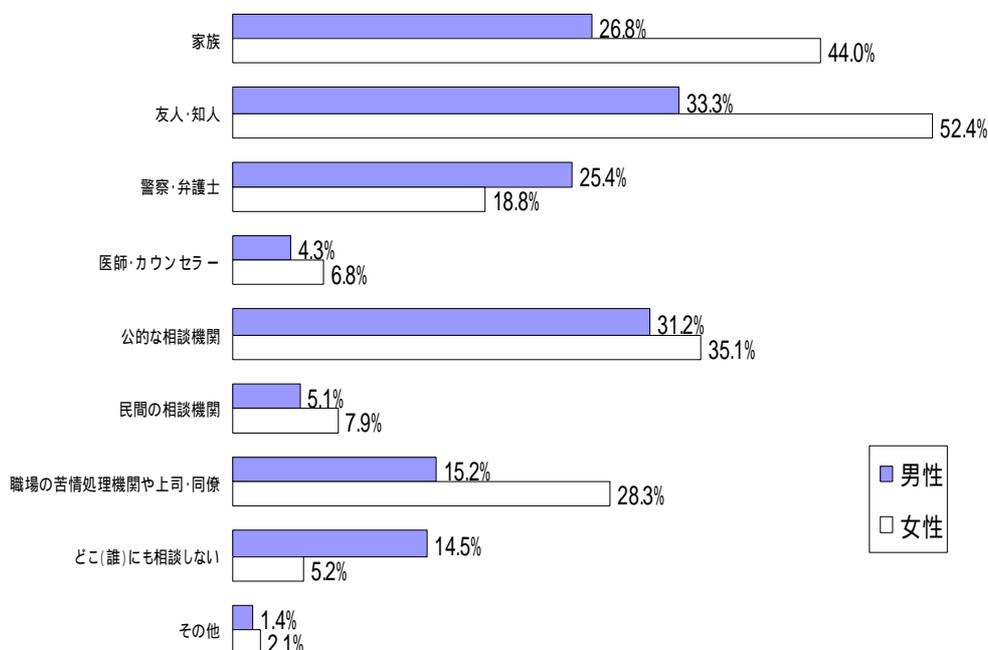
- 自分が直接被害を受けたことがある
- 相談を受けたことがある
- 被害を受けた人を知っている
- 身近に被害を受けた人はいない
- 言葉自体を知らない
- 自分が加害者になったことがある



「自分が直接被害を受けたことがある」と回答した人は女性のみで、9.9%と約10人に1人が被害を受けたと回答しています。特に多いのが30代で19.4%、次に20代の15.4%が「ある」と回答しています。「加害者になったことがある」と回答した人はいませんでした。

問13 もしあなたがセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)の被害にあったときは、どこ(誰)に相談しますか？ (回答は3つまで)

家族 友人・知人 警察・弁護士 医師・カウンセラー
 公的な相談機関 民間の相談機関
 職場の苦情処理機関や上司・同僚 どこ(誰)にも相談しない



【 その他の意見 】

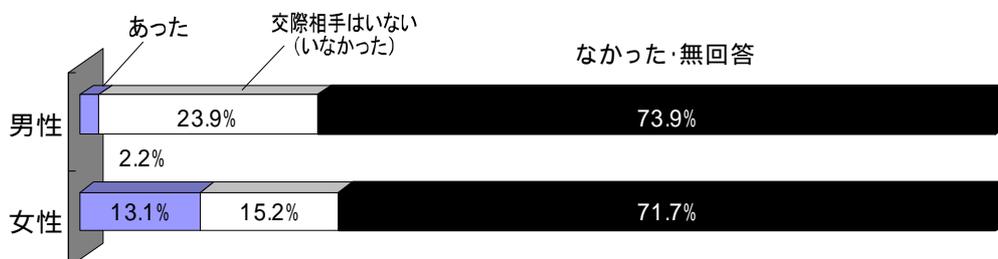
- 「男性なので考えられない」(20代男性)
- 「相談できない」(30代女性)
- 「その時になったらできないかも」(30代女性)
- 「その時にならないとわからない」(30代女性)

男女とも「友人・知人」がもっとも多く男性 33.3%女性 52.4%です。次に多いのは男女で違い、男性は「公的な相談機関」で 31.2%、女性は「家族」で 44.0%です。

DV被害にあったときの対応と同じく、女性が被害にあったときには何らかの相手に相談するのに比べ、男性は相談しない傾向が現れており、「どこ(誰)にも相談しない」と回答した女性が 5.2%に対し男性は 14.5%でした。

問14 あなたは10歳代から20歳代のときに交際相手から下記のような被害を受けた経験がありますか？（当てはまるものすべて）

- 殴る・蹴るなどの身体に対する暴行を受けたことがある
- 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けたことがある
- 性的な行為を強要されたことがある



交際相手からの被害経験をまとめてみると、当時の交際相手から「身体的」「精神的」「性的」のいずれか1つでも被害を受けた経験が『ある』という人は男性2.2%、女性13.1%となっています。

	男性		女性	
	10歳代	20歳代	10歳代	20歳代
殴る・蹴るなどの身体に対する暴行を受けたことがある	0.7%	0.0%	2.6%	3.1%
精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けたことがある	0.7%	1.4%	3.1%	5.8%
性的な行為を強要されたことがある	0.0%	0.0%	1.6%	3.1%
合計	1.4%	1.4%	7.3%	12.0%

被害経験の割合が最も高いのは、精神的な嫌がらせを20代のときに受けた女性で5.8%。この項目は男性、女性ともに被害経験があると回答しています。

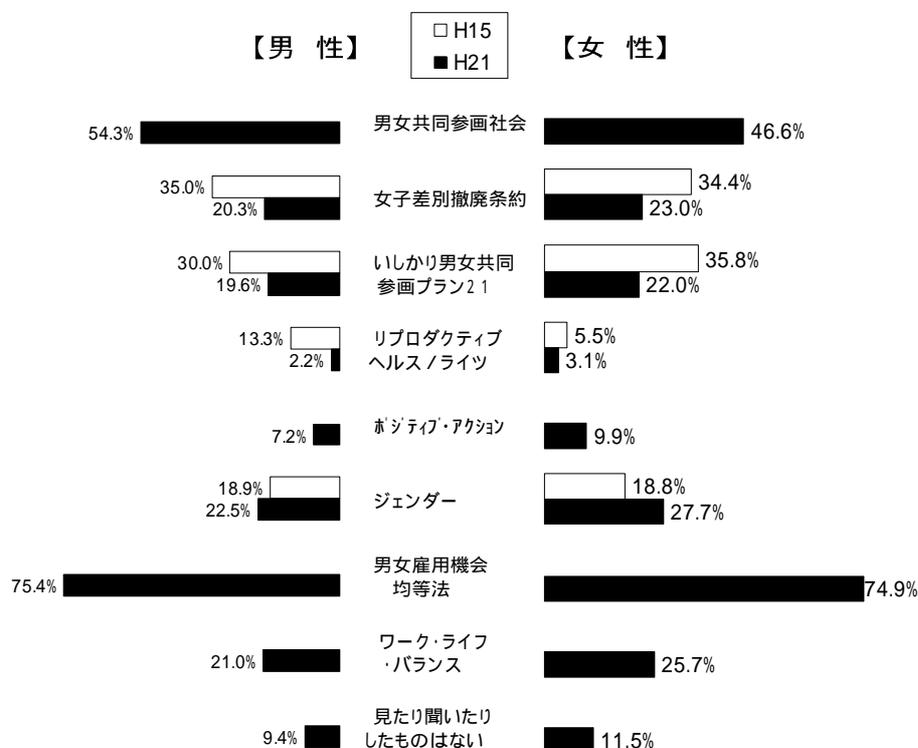
また、性的強要を受けた経験がある女性が4.7%対し、男性は0%となっています。

10代から20代のときに交際相手からの被害経験がある人は28人（男性3人、女性25人）で、そのうち7人が複数の被害経験があると回答しています。

男女共同参画社会の形成に関する意識について

問15 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか？

- 男女共同参画社会 (当てはまるものすべて)
 女子差別撤廃条約
 いしかり男女共同参画プラン21
 リプロダクティブヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)
 ポジティブ・アクション(積極的改善措置)
 ジェンダー(社会的に作られた性別、性差)
 男女雇用機会均等法
 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)
 見たり聞いたりしたものはなし



、 、 、 のみ平成15年調査実施項目

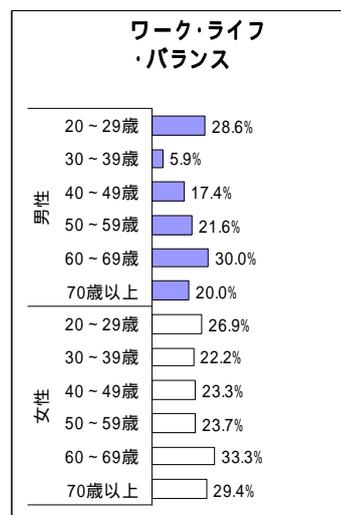
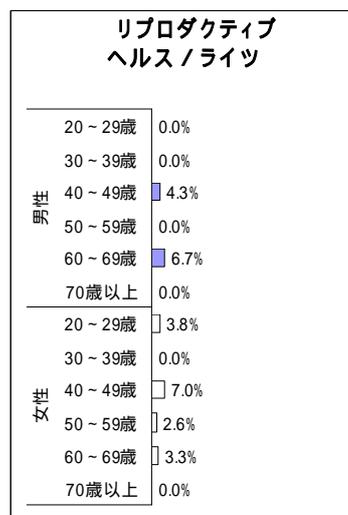
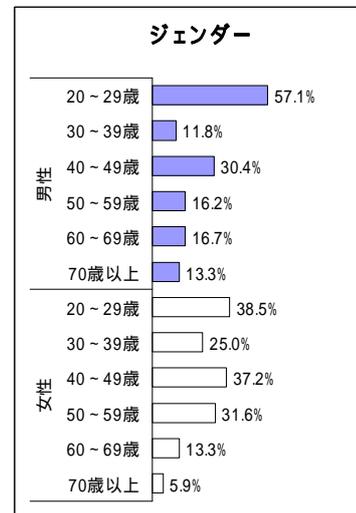
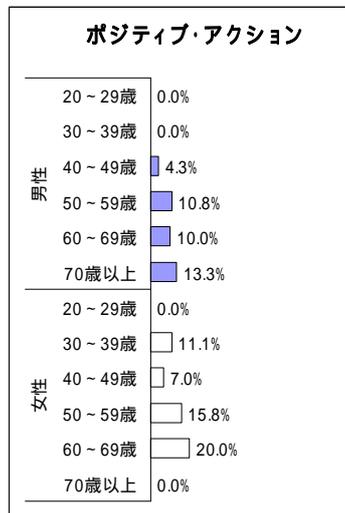
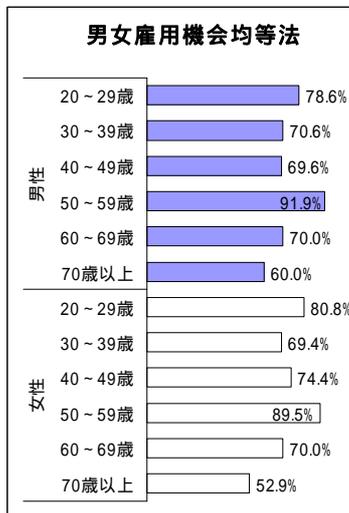
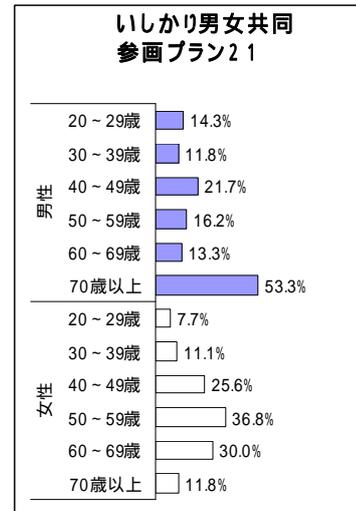
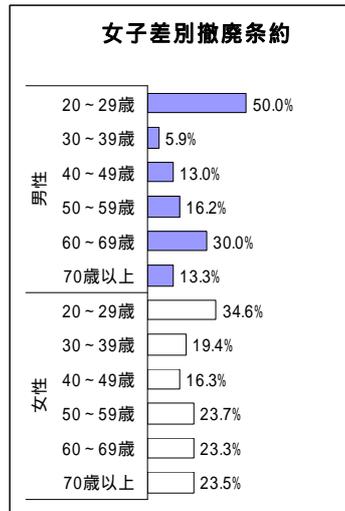
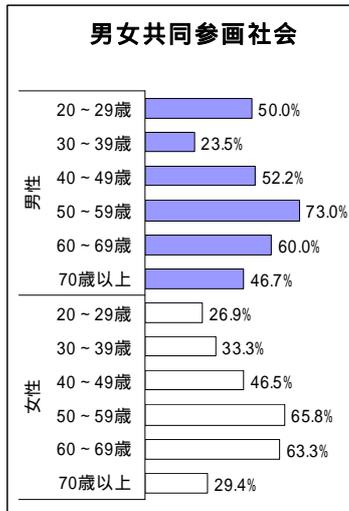
一番多かったのが「男女雇用機会均等法」で男性75.4%女性74.9%。2番目が「男女共同参画社会」で男性54.3%女性46.6%。次は「ワーク・ライフ・バランス」で男性21.0%女性25.7%と一気に低くなります。

一番低いのは「リプロダクティブヘルス/ライツ」の男性2.2%女性3.1%で、これは平成15年度調査時の男性13.3%女性5.5%から更に下がっています。

男女の割合はどの項目もほぼ同じですが、8項目中6項目で女性の方が男性より回答率が高くなっています。また「見たり聞いたりしたものはなし」と答えた割合も女性の方が高くなっています。

前回調査でも採り上げた言葉のうち「女子差別撤廃条約」「いしかり男女共同参画プラン21」「リプロダクティブヘルス/ライツ」は認知度が下がり、「ジェンダー」はあがりました。

【男女別 / 年代別の認知度】



男女合計で一番認知度が高かったのは「男女雇用機会均等法」で全年代の認知度が平均して高く、次に認知度が高かった「男女共同参画社会」は、最も高いのは50代男性73.0%ですが、2割台が20代女性、30代男性、70代女性、3割台が30代女性と年代・性別により認知度に差があります。

全体に認知度が高い世代は50、60代です。20代は「女性差別撤廃条約」「ジェンダー」で他の年代に差をつけて認知度が高くなっています。

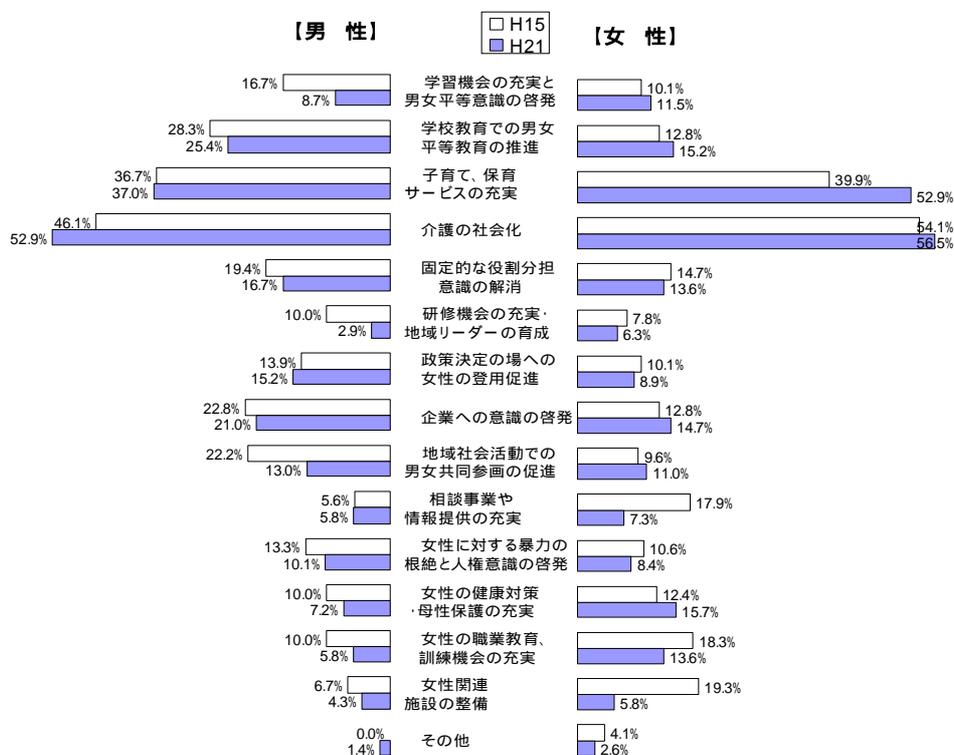
男女間で差がある項目は「いしかり男女共同参画プラン21」で、男性は70代の53.3%以外はどの世代もほとんど1割台なのに対し、女性は20代の7.7%以外は40代25.6%、50代36.8%、60代30.0%と50代を中心に高く、同世代の男性との差が開いています。

認知度が低かった「ポジティブ・アクション」は、20代では男女とも0.0%と知っている人はいませんでしたが、30代以上では年代があがるにつれて認知度も微増傾向がでています。最も低かった「リプロダクティブヘルス/ライツ」は0.0%が20代男性、30代男女、50代男性、70代男女、その他の世代も総じて低く、全世代・性別でほとんど知られていない状況となっています。

問16 今後、市に力を入れてほしいと考える取り組みを次の中から選んでください。

(3つまで)

- 男女共同参画についての学習機会の充実と男女平等意識の啓発
- 学校教育での男女平等教育の推進
- 子育て、保育サービスの充実
- 介護の社会化
- 男女の固定的な役割分担意識の解消
- 女性の資質向上のための研修機会の充実や地域リーダーの育成
- 審議会や管理職など政策決定の場への女性の登用促進
- 企業や事業主に対する男女共同参画意識の啓発
- 地域社会活動での男女共同参画の促進
- 女性のための相談事業や情報提供の充実
- 女性に対する暴力の根絶と人権意識の啓発
- 女性の健康対策や母性保護の充実
- 女性の職業教育、訓練機会の充実
- 女性の学習や活動のための施設の整備
- その他



最も多く希望しているのは男女とも「介護の社会化」で、男性 52.9%、女性 56.5%と全体の半数以上が希望しています。次は「子育て、保育サービスの充実」ですが、男性 37.0%に対し、女性 52.9%と女性の方が多く希望しています。

「子育て、保育サービスの充実」以外に男女差が見られるものは、「学校教育での男女平等教育の推進」と「女性の健康対策や母性保護の充実」です。前者は男性 25.4%に対して女性 15.2%で、4人に1人の男性が希望し、後者は男性 4.3%に対して女性 15.7%で、全項目の中でも「介護の社会化」「子育て、保育サービスの充実」の次に多くの女性が希望しています。

	男性	女性
男女共同参画についての学習機会の充実と男女平等意識の啓発	8.7%	11.5%
学校教育での男女平等教育の推進	25.4%	15.2%
子育て、保育サービスの充実	37.0%	52.9%
介護の社会化	52.9%	56.5%
男女の固定的な役割分担意識の解消	16.7%	13.6%
女性の資質向上のための研修機会の充実や地域リーダーの育成	2.9%	6.3%
審議会や管理職など政策決定の場への女性の登用促進	15.2%	8.9%
企業や事業主に対する男女共同参画意識の啓発	21.0%	14.7%
地域社会活動での男女共同参画の促進	13.0%	11.0%
女性のための相談事業や情報提供の充実	5.8%	7.3%
女性に対する暴力の根絶と人権意識の啓発	10.1%	8.4%
女性の健康対策や母性保護の充実	7.2%	15.7%
女性の職業教育、訓練機会の充実	5.8%	13.6%
女性の学習や活動のための施設の整備	4.3%	5.8%
その他	1.4%	2.6%